2014年度・平成26年度

くずは青葉幼稚園

自己評価・学校評価

2015年４月

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

P	標　　題
2	**はじめに幼稚園（学校）評価の目的・学校評価に関する規定**
3	**学校評価並びに自己評価結果の公開**
3	**１．本園の教育目標並びに2014年度・平成26年度教育指針の設定について**
3	年長学年・５歳児
6	年中学年・４歳児
8	年少学年・３歳児
11	幼稚園全体・全学年
12	各学級　学級経営案
16	**２．平成26年度に重点的に取り組んだ教育内容**
16	**３．自己評価項目の内容と達成及び取組の状況**
17	**教員　自己評価　詳細**
17	Ａ　教育方針・指導計画　　Ｂ　健康
20	Ｃ　人間環境　Ｄ　環境　　Ｅ　言葉

P	標　　題
22	Ｆ　表現　　Ｇ　家庭連携　Ｈ安全管理
25	Ｉ　学級運営　Ｊ　業務全般　Ｋ　研修と研究
27	**幼稚園運営　自己評価**
27	1. 幼稚園教育の基本方針と組織　2. 保育内容の確認
28	3. 研修と研究　　4. 幼稚園機能の拡大
29	5. 諸法規の遵守
30	6. リスク対応　　7. 適正な事務処理
31	**４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果**
31	**５．今後取り組むべき課題**
32	**６．研修内容の詳細**
33	**７．学校関係者の評価**
38	**８．財務状況**
38	**９．その他、特筆すべき事項　認定こども園への移行について**

はじめに

本園では、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきた所である。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より、「学校評価（並びに自己評価）」の公表（平成20年度版）を実施。以後、年度毎にこれを実施し、平成26年度における「学校評価（自己評価）」についてこれを公開するものとする。（2015年４月公開）**このことにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらい、併せて学校評価における指摘事項や意見を反映し、教育目標の達成できるよう努力研鑽に励むところである。**

幼稚園（学校）評価の目的と学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。

・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。

・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者（学校法人山口学園理事会）に報告。

学校評価並びに自己評価結果の公開

１．本園の教育目標並びに2014年度・平成26年度教育指針の設定について

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を調えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躾」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むこと目指し努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。**この趣旨目的を建学の精神、「たくましく人間性ゆたかな子どもをめざす」の言葉で現している。**

2014年度・平成26年度においては、それぞれの学年において次ページ以下の教育目標（学年単位）を設定し、保育に努めた。また、その期ごと（１～３学期終了時）に学年の単位で評価会議、その内容を教員全員で反省会議を実施し、次学期向けての課題を学年を越えて確認した。

年長学年・5歳児

［学年の目標］

様々な活動に意欲を持ち、友だちと協力しながら主体的に取り組み、達成感や充実感を共有する。

［健康・生活習慣］

１期（４・５月）◎新しい環境に慣れ安定して過ごす。
◎生活習慣を見直すとともに、新しい生活の場所を知り、仕方を身につける。
◎正しい挨拶の仕方を身につけ色々な人にすすんで行う。
◎生活や活動の約束事を意識し、けじめをもって行動する。
２期（６～８月）◎人の話を聞く大切さを感じ、注意して聞き、内容を理解する。
◎身体を動かす楽しさを感じ、戸外で伸び伸びとあそぶ。
◎安全に気を付けて遊具や用具を正しく使う。
３期（９～12月）◎園生活での約束事を友だちと伝え合い、意識を高める。
◎生活習慣を身につけ、自分で意識を高くもって意欲的に取り組む。
◎病気の予防に関心を持ち、健康な生活の習慣を身につける。
４期（１～３月）◎身についたことを丁寧に行い、健康に気をつける。
◎生活習慣や活動への見通しを持ち、友だちと助け合いながら自主的に取り組む。

- 一日の生活の流れや行事の内容、流れ等について予め伝え、見通しを持って行動できるようにする。
- 友だち同士で見合いをしたり、教え合うことで意識を高め進んで行えるようにする。必要に応じ、繰り返し保育者が言葉がけたり確認し、習慣づけていく。
- 自分たちで整理整頓して過ごすことの心地よさを味わえるように、言葉掛ける。
- 最年長児であることに自覚が持てるよう話をし、生活態度や活動に取り組む姿勢で手本となる気持ちが持てるようにする。
- 製作時は、机の上を整理しながら活動する等、常に整理整頓を意識できるよう言葉がける。
- 子どもたちが、話に興味や関心を持って聞けるよう保育者は、抑揚をつけたり話す内容に応じて順序立てて話すなど伝え方を工夫する。
- 話を聞いて、感じたり、行動したりすることの大切さを知らせ、注意して聞こうとする意識を高める。
- さまざまな運動用具を準備し、保育者が仕方やコツを伝えながら意欲的に取り組める環境を整える。
- 衣服調節や水分補給、手洗い、うがい、消毒を進んで行えるよう指導するとともに、伝染病やその他の病気について知り、健康への意識を高められるよう話をしていく。
- 友だちの様子に関心をもち、教えようとしたり出来たことを共に喜ぶなどクラスの仲間としての意識がもてるよう話をする。

・挨拶の大切さや気持ちよさに気付けるよう話をするとともに、正しい挨拶の仕方を知らせる。保育者が見本となり、繰り返し伝えていく。
・危険について意識を高められるよう話をし、必要であれば視覚的に伝えることで理解につなげる。

［人間関係］

１期（４・５月）◎友だちや保育者に親しみを持ち、進んで関わろうとする。
◎年長児としての自覚を持ち、小さな友だちの世話を意欲的に行う。
◎集団遊びに関心を持ち、ルールを伝え合いながら楽しく取り組む。
２期（６～８月）◎友だちと遊ぶ中で、色々な考えや思いがあることに気づき、受け止めようとする
◎気の合う友だちと一緒に考えを出し合いながら、遊びを進める。
◎集団遊びの中で勝敗がつく面白さや悔しさを共感しあい、繰り返し取り組もうとする。
３期（９～12月）◎ひとつの目標に向かって友だちと協力しながら、達成する喜びや楽しさを味わう。
◎目的をもってあそび、実現するために繰り返し挑戦するとともに、みんなで教え合ったり遊び方を考えようとする。
◎相手の気持ちを考え、言葉を選んだり、関わり方を自分なりに工夫し、積極的に関わろうとする。
４期（１～３月）◎友だちの良いところを認め合い、一緒に活動する楽しさを味わう。
◎自分たちが行ってきたことに自信を持ち、色々な人と積極的に関わろうとする。

・個々の内面を理解し、一人ひとりに寄り添った関わりをすることを心がけ、保育者との信頼関係を築けるようにする。
・遊びの時間を十分に確保していくことで友だちと関わる時間を多く持てるようにする。子どもが遊びの様子を十分に把握できるようにする。
・日頃から年下の友だちのことを意識し、関わりが持てるよう言葉がける機会をつくっていく。関わり方については自分たちで気づいたり考えながら関われるよう話をしていく。
・年下の友だちへ関わろうとする気持ちを認め、自信につなげる。
・他学年の様子や活動の内容について定期的に話をしたり、実際に見ることで関心が持てるようにする。
・トラブルが起こった時には、子ども同士で解決していけるよう見守ったり、必要な言葉を具体的に知らせ援助していく。必要であればクラスや学年全体で考えられるよう機会を設ける。
・友だちの表情に気付いたり気持ちを考えられるよう話をし、色々な角度から友だちを見ようとする気持ちを持てるようにしていく。
・様々な活動を通し、友だちと力を合わせることの大切さを保育者も共感し、意欲につなげ達成感を味わえるようにする。一人ひとりの頑張りを認め自信につなげながら取り組んでいく。
・友だちの良いところを発表する機会を設け、互いを認め合えるようにする。
・色々な人が支え合って生きていることを具体的な場面をあげながら話し、色々な人に思いやりや感謝の気持ちが持てるようにする。
・個々の考えや思いを認め、保育者も一緒にじっくり考える時間を持つことで、自分で考え「やってみよう」という気持ちにつなげる。
・友だち同士、認め合ったり励まし合える雰囲気作りをすることで苦手意識のある子どもも楽しみながら意欲的に取り組もうとする。

［環境・遊び・自然・数量］

１期（４・５月）◎身近な動植物に興味関心を持ち、観察したり面白さや美しさに気付くとともに世話をしたり大切に思う気持ちを持つ。
◎物の活用の仕方やその物の必要性を知り、大切にする。
２期（６～８月）◎栽培物の世話を通し、植物の生長に関心を持ったり、収穫の喜びを味わう。
◎砂やどろんこ、水遊びなどの活動の中でそのものの性質に気づき工夫して遊ぶ。
◎友だちとの距離感や間隔の取り方への意識を高める。
３期（９～12月）◎身近な遊具や用具に興味を持って関わり、考えたり試したりしながら工夫して遊ぶ。
◎日常生活の中で、数量や図形に感心を持つ。
◎自然物に関心を持ち、素材の感触や性質に気付き、遊びに取り入れようとする。
◎生活の中で、前後左右、遠近等の位置の違いや、時刻・時間などに興味や関心を持つ。
４期（１～３月）◎冬の事象に関心を持ち、それを取り入れて遊んだり、動植物の様子から春の訪れに興味や関心を持つ。

・栽培物の生長に興味が持てるよう、保育者自身が小さな変化にも気づき話をしていく。
・栽培物の世話を毎日することの大切さを知らせ、進んで行えるようにする。
・保育者自身、物を大切に扱い見本となる。

・教材（折り紙、画用紙等）や玩具など、工夫の仕方で様々な活用法があることを知らせ、物への関わりを自分たちで発展させて物を大切にする気持ちにつなげていく。
・物の使い方の工夫やその物の必要性について、必要に応じ自分で考えたり試して気が付けるよう見守る。
・整列、移動、円をつくるときなどには、友だちとの間隔について意識ができるよう言葉掛ける。
・遊具や用具に十分関われるよう、環境を整える。時には、友だちが工夫して遊んでいることに気づけるよう言葉がけたり、保育者自らが工夫の仕方を示し、色々な物に興味を持って関わる機会をつくる。
・自然物を製作に取り入れたり、畑や裏山などを見に行く機会を設け、季節を感じられるようにする
・保育者自身も季節の事象に関心を持ち、季節の移り変わりに子どもたちが気付けるよう言葉がけていく。
・ワークブックのページや内容を一緒に読んだり、生活の中で時計を活用するなどし、文字や数字に関心が持てるようにする。
・科学あそびを通し、比べたり、数えたり、遊びながら興味を持てるようにする。
・体操や表現あそびの際には、左右を意識できるように言葉がけたり、友だちとの間隔についても知らせていく
・色々な事象の美しさ(植物、色、整頓など)に気付けるよう話をする。

［言葉］

１期（４・５月）◎自分の思いや考えを相手にわかるよう言葉で伝える。
◎話しかけや問いかけにしっかりと返事をし、行動したり自分の思いを伝えようとする。
２期（６～８月）◎人の話に関心を持ち、最後まで注意して聞こうとする。
３期（９～12月）◎絵本や紙芝居に親しみ、興味を持って聞いたり読んだりし、想像する楽しさを味わう。
◎遊びの中で感じたことや考えたことを言葉で伝えるとともに友だちのことを認めたり、励ます声掛けを行う。
４期（１～３月）◎人の言葉をよく聞き、自分の考えや経験したことを話し、伝え合う喜びを味わう。
◎絵本や物語などに親しみ、友だちや保育者と心を通わせる。

・友だちや保育者、様々な人との関わりの中で、必要な挨拶やことばを使ってやりとりが出来るよう、知らせていく。
・挨拶は保育者が率先して行う。挨拶の大切さや気持ちよさに気付けるよう話をする。
・友だちとの関わりの中で、嫌なことや困ったことがある時に、自分の気持ちを言葉で伝えられるよう、その都度繰り返し話をするとともに必要な言葉を具体的に知らせていく。
・聞く方も最後まで相手の話を聞く気持ちが持てるよう指導していく。
・友だちとの関わりの中で、ぶつかり合った時でも、自分たちで解決できるよう見守る機会をつくっていく。
・絵本や紙芝居の読み聞かせの時間や自由に選んで本を読む時間を確保し、色々な物語に触れられるようにする。
・物語を通し、感じたことや想像したことを伝え合う機会を設ける。
・思っていることを最後まで丁寧に話すことが出来るよう指導していく。
・英語指導を通し、コミュニケーションをとることや、自分の気持ちを伝えることを楽しんで行えるようにする
・自分の感じたことや経験したことなどを発表する場を多く設ける。
・親しみのある友だちに対しても名前を丁寧に呼んだり、言葉遣いに気を付けさせられるようにする。

［表現］

１期（４・５月）◎感じたことを自由に描いたり、作ることで表現する楽しさを味わう。
◎色々な楽器に興味を持ち、簡単な合奏を楽しむ。
２期（６～８月）◎色々な歌に親しみ、歌詞やその世界を思い浮かべながら心を込めて歌う。
３期（９～12月）◎曲やリズムに合わせ、全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わう。
◎楽器の音色や特徴、曲調に気付きながら演奏する。
◎感じたことや想像したこと、体験したことをイメージに合う素材や用具を用いて表現する。
４期（１～３月）◎劇遊びを通して、自分のイメージを豊かにし、動きや言葉、表情で表現したり演じて遊ぶ楽しさを味わう。

・年間を通して鉄琴、木琴、鍵盤ハーモニカ、打楽器に触れる機会を設け、演奏する楽しさを味わうようにすると共に、日頃から触れられるよう環境を整えておく。
・歌は、歌詞の意味を伝え、気持ちを込めて歌うように指導する。
・歌や楽器の取り組みでは、個々の様子を把握し、個々に合わせた指導を行い自信につなげていく。
・自由に絵を描いたり、ある形から連想して絵を描く等の機会を持ち、イメージを豊かにし、伸び伸びと表現できるようにしていく。
・リズム表現では、子ども達が興味を持ち伸び伸びと楽しめるよう題材（曲、踊り）遊びを工夫する。
・製作では、色々な素材や技法を取り入れていく。
・色々な楽器や素材に子ども達が自由に触れられる環境を整えておくようにする。
・劇遊びは子ども達の意見を大切にし取り入れていくことで、より意欲を高め楽しさを感じられるようにする。

［遊び・全身運動］［造形・音楽リズム・自然］chart略

年中学年・4歳児

［学年の目標］

思いやりの気持ちを持ち、友だちとの関わりを深めながら活動や遊びの中で自分の力を発揮し意欲的に取り組む。

［健康・生活習慣］

１期（４・５月）◎園生活の仕方がわかり見通しをもって自分の出来ることを進んでしようとする。
◎手洗い・うがい・消毒を進んで行い、健康への意識を高める。
◎安全な生活の仕方を知り、約束事を守ろうとする。
◎戸外で身体を動かす心地良さを感じ自ら身体を動かそうとする。

２期（６～８月）◎夏の生活の仕方を知り自ら進んで行ない、身につける。
◎危険な遊び方や災害時の約束事を守ろうとする。

３期（９～12月）◎生活習慣を見直し、身についたことを継続して行う大切さに気付き、丁寧に取り組む。
◎色々な遊具や用具を使い、戸外でみんなと一緒に身体を動かすことを楽しむ。

４期（１～３月）◎身についたことを意欲的に行い、自信をもって取り組む中で、進級に期待を持つ。
◎手洗い、うがいを進んで行ない病気の予防について関心を持ち進んで行う。

・園生活で習慣づいていることを子どもたちと確認しながら、見直す時間をつくっていき、自分でできることは自分でできるようにしていく。
・出来たことを認め、自信を持てるようにする。
・手洗いやうがい、消毒、衣服調節、水分補給、排泄の仕方（和式トイレ・制ズボン着用での仕方）など進んで行えるように言葉がけ気付かせていく。また、出来ているか保育者も十分に把握し、指導していく。整理整頓、身だしなみをととのえる。
・集団の中の一人としての自覚を持ち、友だちとの生活のペースを合わせながら、行動する意識が持てるようにしていく。
・けじめをもって話が聞けるよう、姿勢を正してから話し始めるとともに返事の大切さも伝え、話し方や導入も工夫する。
・話の内容を理解し、場に応じた返答が出来るよう指導する。
・日頃から正しい遊具の使い方や遊び方を伝えるとともに、みんなで活動する中で身体を思いっきり動かして遊ぶ楽しさを感じられるよう保育者も心地良さを共有していく。
・交通安全指導や避難訓練を通して、安全な行動を身につけ、機敏に行動できるよう日頃から話を聞いてすぐ行動に移せるよう指導していく。
・サーキットや体育指導で取り組んだ内容を日頃から取り組めるように挑戦する気持ちを育む。
・順番を守ることや、並び方(間隔をあける、真っ直ぐ並ぶ)保育室や廊下の歩き方や階段の使い方（右側通行）も指導し、安全に過ごすこと、怪我を防ぐことが身につくようにする。

［人間関係］

１期（４・５月）◎新しい友だちや保育者に親しみ、一緒に過ごすことの喜びを味わう。
◎友だちの思いを表情や言葉から汲み取り行動しようとする。

２期（６～８月）◎好きな遊びを通して、友だちとのやりとりを楽しみながら遊びこみ友だちの良さに気づく。
◎異年齢や学年の友だちに親しみを持ち、触れ合いながら遊ぶことを楽しむ。

３期（９～12月）◎友だちの思いを受け止めながら自分の思いも相手にわかるように伝えようとする。
◎クラスの友だちと一つのことに取り組む楽しさを味わう中で友だちの個性に気付き、受け入れたり認めようとする。

４期（１～３月）◎活動や遊びの中で友だちと一緒に物事をすすめたり、解決しようとする。
◎年下の友だちに思いやりの気持ちを持って関わろうとする。

・保育者は、一人ひとりの気持ちを受け止め、安心できるよう信頼関係をつくっていく。
・トラブルでの仲立ちとなる際は、言葉で思いを伝え合ったり、受け入れることの大切さを伝えていく。様子を見ながら必要な言葉を知らせ見守り、自分たちで解決する力を育む。
・好きな遊びを見つけ、じっくり取り組める場所や時間を確保する。個々での遊びに取り組める時間を設けることで、友だちとの関わりを深められるようにする。遊びが拡がるように保育者が仲立ちとなったり、リーダー的存在の子どもを遊びの中心におくなどする。
・集団あそびにも積極的に取り組めるようにし、クラスや学年の友だちとの関わりを深める。
・異年齢児と関わる時間を設け、具体的な関わり方や言葉掛けの仕方を知らせ、思いやりを持って関われるようにする。［年少児に着替えを教えたり、園での約束事を知らせるようにすることで自らの意識向上にもつなげる］［年長児と関わる中で教えてもらう経験から憧れの気持ちを持ち、やってみようとする思いにつなげる］［クラスの友だちとの関わり方につなげる］

・当番活動や自分の感じたことや思ったこと、作品を発表する機会を設け、相手に伝わる伝え方に気付けるようにし、自らも話を聞く大切さに気付けるようにする。
・学年での活動や横割り活動も取り入れ、色々な友だちとの関わりを深められるようにする。また、保育者も全体の様子を把握できるようにし共通理解を図る。
・友だちに興味を持てるように、友だちの頑張りや良いところに気付き、認め合えるよう保育者も率先して言葉掛ける。

［環境・遊び］

１期（４・５月）◎季節の植物や生き物に気付き、興味や関心を持つ。
◎保育室の整理整頓、おもちゃの片付けなど進んで行ない最後まで気持ちよく過ごせる環境を整えようとする。
◎ものを大切にする気持ちを持ち、丁寧に扱う。
２期（６～８月）◎水や泥、砂に触れて夏ならではの遊びを十分に楽しむ。
◎野菜の栽培を通し、世話をすることで生長する様子に感動や期待を持つ。
３期（９～12月）◎季節の変化に気付き、植物や果物の名前や特徴を知り、興味を持つ。
◎色々な活動（廃材遊び、楽器遊び等）を通して、物の性質や特徴を知り、興味や関心を持って取り入れて遊ぼうとする。
４期（１～３月）◎自分なりの遊びのイメージや目標を持ち、友だちと共有しながら継続して取り組む。
◎友だちと意見を出しあい、工夫しながら遊びを発展させ、役割分担をしながら遊びを進めようとする。

・裏山（自然観察園）散策や市民の森公園散策を通して、自然物や季節の移り変わりに気付き、親しめるようにする。
・子ども達が、興味を持っているものを保育者も把握し、環境をととのえて遊びを充実させていく。
・自然物等を使って遊ぶ時間を十分に確保し、その中で工夫したり物を大切にする気持ちを育てる。
・園庭に咲いている植物や虫に興味・関心を持てるよう図鑑や絵本をみれるよう環境を整える。また、今まで世話してきたチューリップが咲いたことに気付けるよう言葉掛ける。
・屋上や戸外で食事をする機会を設け、戸外で過ごす心地良さを味わえるようにする。
・水や泥の感触を味わえるようにするとともに取り入れながら全身をつかう遊びを伝える。
・水に慣れるよう年少時から取り組んだフープくぐりや列車ごっこ遊び、自然に水と親しめるような遊びに取り組んでいく。
・当番活動の中で整理整頓を呼びかけるとともに進んで行えるよう指導していく。
・日付や天気を子ども達と毎日確認し、正しい数字の読み方を覚え、日々の変化に興味が、持てるように指導していく。
・野菜の生長を見たり、収穫し食することで食物への関心がもてるようにする。
・伝承遊びや集団遊びを取り入れ、自分たちでルールを考えたり遊びをすすめていく力を育む。
・運動用具や縄跳びに継続して取り組む中で、挑戦したり、繰り返し取り組む大切さを感じられるようにする。みんなの前で練習の成果を発揮できる場も設け、更なる意欲につなげる。
・みんなで使うものや、自分のものを大切に扱えるよう言葉掛け、意識ができるようにしていく。

［言葉］

１期（４・５月）◎経験し感じたことを自分なりの言葉で表現しようとする。
◎保育者や友だちに進んで挨拶や返事をする。
２期（６～８月）◎人の話を興味を持って聞き、共感したことを言葉で伝え合う楽しさを味わう。
◎正しい言葉の使い方を身につけ優しく伝えようとする。
３期（９～12月）◎友だちの頑張る姿や良いところに気付き、認め合い伝え合う喜びを味わう。
◎色々な曲を歌い、歌詞の意味を理解し感情を込めて歌う。
４期（１～３月）◎絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞く楽しさを味わう。
◎クラスや異年齢の友だちに思いやりを持って関わり、気づいた事や感じたことを伝え合う。

・クラス内で発表し合える機会を作り、友だちの話に興味を持つとともに感じたことや経験したことを自分の言葉でわかりやすく伝えられるように援助していく。また、相手が理解できているか、気にかけながら会話を進めていけるようにする。
・日々の活動で子どもたちが努力していることに保育者が気付き、言葉かけることで子ども達も認め合えるようにしていく。
・日常生活で必要な挨拶が気持ちよく行えるよう指導し、返事をすることの大切さに気付けるよう話をしていく。

・気持ちのいい挨拶や返事の仕方を知らせ、身に付くようにする。
・互いの気持ちを受け止められるように場面に応じた仲立ちをし、気持ちの表し方や伝え方に自ら気付けるようにしていく。
・正しい言葉の使い方や、丁寧な言い回しを伝えていく。
・歌詞の意味を知らせ情景を思い浮かべながら、気持ちを込められるよう指導する。
・読みきかせや素話をするときは、声の強弱等に気をつけ子ども達がイメージを膨らませ聞けるようにする。
・様々な活動の中で遊びを発展できるよう具体的な言葉や関わり方を知らせる。

［表現］

１期（４・５月）◎身体を動かして遊んだり、音や色等さまざまなことを感じながら遊ぶ。
◎イメージしたものや経験したことを思い浮かべながら表現しようとする。
◎リズム遊びを通して、身体を動かし伸び伸びと表現する。
２期（６～８月）◎楽器の音色、特徴や曲調に気付きながら演奏する。
◎リズム遊びを通して、力の加減や身体の動かし方を身につけ、伸び伸びと表現する。
３期（９～12月）◎友だちと音やリズム、動きを揃えて表現する楽しさを味わう。
◎クラスの友だちとひとつのものをつくりあげたり、表現する楽しさを味わう。
４期（１～３月）◎物語をイメージして役になりきり表現し友だちの良いところを取り入れたり工夫しながら取り組もうとする。
◎感じたことを様々な方法で表現する楽しさを味わう。

・さまざまな素材や表現に触れ、工夫しながら表現できるよう提供していく。また、色々な素材や用具を目的に合わせて選べるように指導していく。
・話を聞いて自分なりにイメージして言葉や身体で表現する機会をつくる。また、保育者も子どもの言葉や表現を引き出せるように言葉掛けていく。
・年少時に引き続き、リズム遊びを取り入れ、身体全体で表現したり、音楽リズムに合わせて表現する楽しさを味わえるようにする。また、少人数グループや全員で行える活動も取り入れ、友だちと揃えたり触れ合えるようにする。その中で、力の加減や間隔の取り方、細かい身体の動かし方等も身につくようにする。
・楽器に親しんで使い慣れるようにするとともに簡単なリズム打ちを楽しんで行えるよう指導する。リズムが揃ったり音が重なり合う美しさにも気付けるように言葉掛けていく。
・作品を見合い、工夫した所や良いところを言いあう機会を設け、友だちの表現に興味を持つとともに自分の表現（作品）に自信を持てるようにする。
・自由画帳を活用し、自由に絵を描く経験を積む。
・テーマを決めて描いたり、物語を聞いてイメージして描く活動も取り入れ、自分なりにイメージを膨らませ、思い思いに表現する力を育む。
・用具を使いこなせるように、活動内容を工夫しながら指導していく。
・同じ技法を繰り返し取り入れ経験することで身につけ、豊かな表現力を育む。その中で工夫しながらじっくり取り組んだり、丁寧に取り組み、細やかさが身に付くように指導する。
・様々な歌をうたう中で曲の強弱や速度、心情面や表現の仕方について知らせ豊かな表現ができるようにする。

［遊び・全身運動］［造形・音楽リズム・自然］chart略

年少学年・3歳児

［学年の目標］

基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。

［人間関係］

１期（４・５月）◎身近な人の存在に気付き、興味を持つ。
◎友だちや保育者に親しみを持ち、安定して過ごす。
２期（６～８月）◎好きな遊びを見つけて友だちと一緒に遊ぼうとする。
◎保育者に親しみを持ち、触れ合ったり一緒に遊ぶことを楽しむ。
３期（９～12月）◎色々な友だちに興味をもち、一緒に遊ぶことで活動を楽しむ。
◎遊びを楽しむ中で友だちとのかかわり方を知る。
４期（１～３月）◎気の合う友だちに自分の思いを伝える。
◎自分の思いを相手に言葉でつたえようとする。
◎友だちにも思いがあることを知り、受け入れようとする。
◎異年齢活動や横割り活動を通し、色々な友だちに親しみを持ち、関わりを楽しむ。

・一人一人スキンシップを図り、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く。
・それぞれが好きな遊びを始められるようにコーナーを作る等、安心して過ごせる環境を整える。
・友だちの遊びに気付けるよう言葉掛ける。
・まねっこ遊びや追いかけっこ等、簡単な遊びを通して保育者の動きや言葉に関心が持てるようにする。
・自分で伝えることが出来たことをしっかり認め、自信につなげる。
・保育者が率先して遊びに誘いかけ、多くの子ども達と関われるようにする。
・集団遊びを取り入れ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
・異年齢児に親しみや憧れの気持ちを持てるよう関わる機会をつくる。
・保育者が仲立ちとなり、言葉を代弁したり友だちの思いを知らせ、気付けるようにする。
・横割り活動を取り入れ、色々な友だちや保育者に親しみ、関わりを深められるようにする。

［健康・生活習慣］

１期（４・５月）◎生活に必要な場所を知り、仕方や約束ごとを知る。
◎園生活に慣れ、安定して過ごす。
２期（６～８月）◎自分の身の回りのことを進んで行おうとする。
◎危険な場所や遊び方、災害時等の行動の仕方を知り気をつけようとする。
◎食物に関心を持ち、食べることを楽しむ。
◎排泄の仕方を覚え、自分でしようとする。
３期（９～12月）◎生活習慣を見直し、意欲的に取り組む。
◎戸外で思いっきり身体を動かす心地良さを味わう。
４期（１～３月）◎安定した気持ちで園生活を送り、自信を持って伸び伸びと行動する。
◎冬の生活の仕方を覚え、進んで行おうとする。
◎園生活に見通しを持ち、自分なりにけじめを持って行動しようとする。

・園生活の仕方や流れを一つひとつ丁寧に知らせ、慣れることで心の安定につなげる。
・生活習慣や約束事（交通ルールや災害時の行動）についての視覚的教材を活用し、理解につなげる。
・保育者間で伝える内容や子ども達の様子について話し合い、共通理解を図れるようにする。
・日頃より食育を通して食物に興味を持てるよう伝えていく。
・絵本等を活用し、興味・関心が持てるようにする。
・出来るようになったことや、自分でしようとする気持ちを認めたり、保育者と思いきり遊び、楽しさを味わえるよう活動を工夫する。
・出来るようになったことについては任せ、自主的に行えるようにする。確認は行なうようにする。
・手洗い、うがい、消毒は丁寧にできるよう指導するとともに確認を行なう。うがいは、２学期からコップを利用してしっかりと行えるよう習慣づけていく。
・子どもたちの成長段階に合わせ、和式トイレの仕方や、制ズボンを下げずに排泄をする仕方を知らせていく。
・子どもたちが落ち着いて行動できるような環境作り（室内の清掃、子どもの導線、保育者自身の言動など）を行なうとともに、自分で気づけるような言葉がけをしていく。

［環境・遊び］

１期（４・５月）◎自分の好きな遊びや場所を見つけて遊ぶ。
◎戸外の自然に触れ、感じたり発見して楽しむ。
２期（６～８月）◎水、砂、泥などの感触を楽しみ伸び伸びと遊ぶ。
◎植物の生長に興味を持ち、喜んで世話をする。
３期（９～12月）◎秋の自然に親しみ、自然物をつかった遊びを取り入れたり収穫の喜びを味わう。
◎身近な物に愛着を持ち、大切にしようとする。
４期（１～３月）◎冬の自然にの不思議さやおもしろさに気付く。
◎友だちと一緒に遊ぶ中で共感し合う喜びを味わう。

・固定遊具や玩具の使い方や約束事を知らせ、楽しさに気付けるようにする。
・園内を巡ったり、遊んだりして色々な場所や自然に興味をもてるようにする。
・保育者や友だちの遊んでいる様子を見せ、遊びに関心を持つよう誘いかける。
・植物の生長過程に気付けるよう話をし、収穫に期待が持てるようにする。
・自然物を遊びや活動に取り入れることで季節の移り変わりを感じられるようにする。
・季節の移り変わりや、自然現象に気付けるよう言葉がける。
・そのものの必要性や、そのものがあることによって遊びが楽しくなることを伝え、愛着をもてるようにする。
・遊びや活動の中で子どもが驚いたり、感動したりする気持ちに共感し、より興味関心が持てるようにする。
・子ども達の話を丁寧に聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。
・口調や言葉づかいに気付き、気を付けられるよう、その都度知らせていく。

［言葉］

１期（４・５月）◎生活の中で大切な挨拶や、返事の仕方を知り元気よく行なう。
◎自分の思いを保育者に伝えようとする。
２期（６～８月）◎遊びや生活の中で必要な言葉を知り、つかう。
◎自分の経験や思いを友だちや保育者に伝える楽しさを味わう。
３期（９～12月）◎人の話をよく聞き、自分なりに理解しようとする。
◎遊びの中で友だちと言葉のやりとりを楽しむ。
４期（１～３月）◎自分が経験したことや想像したことを伝え合う喜びを味わう。
◎絵本や物語に親しみ、興味をもって聞き、イメージを膨らませる。

・絵本の素話を聞かせ、人の話に耳を傾けたり興味を持てるようにする。
・保育者が見本となるよう率先して挨拶を行う。
・状況に合わせて具体的な言葉をその都度知らせ、その場に見合った言葉や必要な言葉を使えるようにする。
・子どもの言葉を保育者が受け止め聞いてもらう喜びを味わえるようにする。
・必要に応じ保育者が言葉がけることで自分の思いを言葉にできるよう援助する。
・子ども達が興味をもって聞けるよう話し方や話す内容を工夫する。
・色々なごっこ遊びを提案し、友だちや保育者と言葉のやりとりを楽しみながら遊べるようにする。
・自分の感じたことや経験したことを発表したり伝え合う機会を持ち、友だちの話に関心を持てるようにする。
・子ども達の話を丁寧に聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにしていく。
・口調や言葉づかいに気付き、気を付けられるよう、その都度知らせていく。

［表現］

１期（４・５月）◎手遊びや歌に親しみ、興味を持つ。
◎保育者や友だちと一緒にリズムに合わせて身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
２期（６～８月）◎色々な材料や用具で描いたり作ったりすることを楽しむ。
◎色々な楽器に興味・関心を持ち、音をならすことを楽しむ。
３期（９～12月）◎自分なりにイメージしたものを伸び伸びと描いたり作ったりして楽しむ。
◎友だちと一緒に歌をうたったり、合奏する楽しさを味わう。
４期（１～３月）◎物語に親しみ、自分なりに伸び伸びと表現することを楽しむ。
◎用具の使い方を身につけ、イメージしたものを自分なりに表現しようとする。

・子どもの歌いやすい歌や興味をもっている歌、手遊びを取り入れる。
・リトミックを取り入れ音楽に合わせて身体を動かす楽しさを味わうようにする。
・用具、楽器の使い方を知らせ、正しく扱えるようにする。
・子どもの興味や成長段階に合わせて、色々な経験ができるよう、活動を考慮する。
・子どもの表現したいことを認め、自信につなげ伸び伸びと表現できるようにする。
・友だちの意見に関心を持ち、取り入れられるよう言葉をひろったり、呼びかけをする。
・色々な楽器の音の違いに気付くよう言葉掛ける。
・保育者も歌をうたったりピアノ伴奏をし、楽しい雰囲気作りをする。
・日頃より、絵本や素話を取り入れ、物語に親しみが持てるようにする。
・子どものイメージを汲み取りながら手順や方法を一緒に考えたり、手掛かりになるよう援助する。
・できた喜びや、表現する楽しさをを共感し、満足感や自信につなげる。
・製作・描画では、子供が自分なりにイメージし、表現できるよう、導入方法や取り組み方を考慮する。

［表現（造形・音楽リズム）］［遊び・全身運動］　chart略

幼稚園全体・全学年

［目　標］ 異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定。

1．異年齢の友達に親しみを持ち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
2．いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
3．すすんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

［2014年度　異年齢児による教育活動の取り組み］

◎　入園・進級当初　［４月・５月］

保育目標　① 異年齢の存在を知らせ親しむ。　② まわりの人へ親しみをもつ。
③ 自分の知っていること、できることを喜んで知らせようとする。
④ 自分たちができることを考え行おうとする。

教育活動　① 園内めぐり→全学年　② 給食準備手伝い→全学年
③ 食育指導→全学年・市民の森散策→年中・年長

◎　異年齢の友達に親しむ　［６月・７月・８月］

保育目標　① 異年齢の友達に興味をもち一緒に遊ぼうとする。
② 異年齢の友達に手伝ってもらいながら自分のことをしようとする。
③ 異年齢の友達にどのように伝えるか考え、接する。
④ 異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

教育活動　① 歯磨き指導　② ダンスを踊る　③ 笹飾り→全学年　④ 異年齢チームでの活動→年中・年長
⑤ 市民の森散策→年中・年長　⑥ ディサービスセンター訪問→年長
⑦ 夏期保育　・夏期預かり保育

◎　異年齢の友達との関わりが深まる　［９月・１０月・１１月・１２月］

保育目標　① 異年齢の友達との関わり方を知る。
② 自分の思いを友達に伝え友達の思いにも気づき受け入れたり応えたりする。
③ 異年齢の関わりの中でリーダー的存在となり遊びをすすめる。

教育活動　① 運動会（異年齢リズム）→全学年
② １０月異年齢活動（市民の森散策、構成遊び）→全学年
③ いもほり（年中・年長）　④ 交通安全指導→全学年　⑤ 七五三参拝
⑥ ディサービスセンター訪問→年長　⑦ １１月異年齢活動
⑧ 市民の森散策→全学年　⑨ 紙芝居読み聞かせ→全学年

◎　異年齢の友達との活動に安心感をもつ　［１月・２月・３月］

保育目標　① 異年齢の友達に積極的に関わり、友達の思いに気づき行動する。
② 今までの経験や関わりに自信をもち、色々な人と関わる力へとつなげる。

教育活動　① 朝の集いゲーム　② お正月遊び　③ 一日入園　④ 昼食会
⑤ 誕生会司会進行・誕生会音楽隊の伝授　⑥ お別れの集い→全学年
⑦ 異年齢保育→年長　⑧ 年長児へのプレゼントづくり→年少・年中
⑨ 卒園製作→年長　⑩ 歩こう会

年間を通し、「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わりが、さりげなく自然になるよう教育目標として設定した。異年齢児の交流は決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると確信して重点目標とした。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されるものと認識している。

各学級　学級経営案

年度初に各担任教諭が設定した「学級経営案」を公開

年少	すみれ	**◎園生活に見通しを持ち、基本的な生活習慣を身につけ、進んで行えるクラス。** ・初めての集団生活への不安な気持ちを受け止め、スキンシップを図り、安心できるようにするとともに、あそびの時間を十分に確保し、伸び伸びと過ごせるようにする。 ・一人ひとりの様子をしっかりと把握し、必要な援助を行っていく。 ・子どもが出来ること、援助を必要とすることを見極め、様子に合わせて関わっていくとともに、自分が出来るようになったことを認め、自信につなげることで、自主的に行動する楽しさを感じられるようにする。 ・保育者の言動に留意し、環境作り・時間の確保を行い、子どもが落ち着いた状態で一つひとつのことに集中して行えるようにする。 **◎色々な友だちに関心や親しみを持ち、思いやりを持って関わることの出来るクラス。** ・友だちのしていることに気づき関心を持ち、進んで関わる気持ちが持てるよう言葉かける。 ・個々にじっくりとあそび込めるよう、時間の確保や働きかけを行なうとともに集団あそびにも取り組み、みんなであそぶ楽しさを感じられるようにする。 ・友だちの思いに気づけるよう言葉掛け、関わり方を具体的に知らせていく。 ・挨拶、返事、「どうぞ」「ありがとう」など、日常の基本的なやりとりを大切にし、進んで行えるようにする。 **◎話をしっかりと聞き、様々なことに興味を持ち、何事にも意欲的に取り組めるクラス。** ・一つひとつの活動に興味を持てるよう、導入について十分考慮し、意欲につなげる。 ・落ち着いた環境作りに留意するとともに、姿勢を整えてから話すことを習慣づけられるようにする。 ・子どもが興味を持っていることや、発言したことを見落とさず、寄り添い、共感していく。 ・苦手意識のある事には気持ちを受け止め、安心できるようにするとともに、挑戦してみようという気持ちを育てていけるようにする。 ・子どもの頑張りや出来たことを十分に認め、自信を持って行動できるようにする。 **◎リズム遊びや造形活動に親しみ、感じたことを伸び伸びと表現できるクラス。** ・子どものイメージや表現を大切に出来るよう、導入や進め方を十分に考慮していく。 ・個々の表現を認め、表現することの楽しさを感じられるようにする。 ・静と動の切り替えに気をつけながら、保育を進めていくようにする。 ・一人ひとりの持つ力の把握をしっかりとし、必要な援助を行っていくようにする。
	たんぽぽ	**◎園生活の流れを理解し、基本的な生活習慣を身につけ、進んで行えるクラス。** ・保育室、ロッカー、靴箱の自分の場所を覚え、持ち物の整理を進んで行えるように仕方や位置を繰り返し伝えていく。 ・食事、活動、着替えの仕方を丁寧に伝えて覚えられるようにし、集中して取り組める環境をつくる。 ・手伝って欲しいことは自分から保育者に伝え、また、自ら進んで行えるように話をする。 **◎友だちや保育者と関わることの楽しさに気付き、一緒に遊ぶことを喜び合えるクラス。** ・子ども一人ひとりと信頼関係を築けるよう、十分に話をする。 ・子どもの成長に合わせた集団遊びを取り入れ、クラスで遊ぶことが楽しいと思えるようにする。 ・一人遊びを認め、楽しんでいる様子を受け止めるとともに、友だちに目を向けて輪の中に入れるよう言葉掛けを行う。 ・色々な遊びを紹介したり、子どもの様子を観察して興味のある遊びを十分に行える環境を整える。 **◎歌やリズム、造形活動に親しみ、感じたことを自分なりに表現できるクラス。** ・季節に合った歌や手遊びを取り入れ、身体を使って遊ぶことや歌うことが楽しいと思えるようにする。 ・ピアノや楽器に興味を持ち、聴いたり音を出す楽しさを味わえるように、親しめる環境をつくる。 ・画材の正しい使い方、身体の成り立ちを知らせ、描く楽しさを味わえるようにする。 ・子どもの成長や興味関心に合わせた題材設定を行い、導入の仕方・取り組み方を工夫する。 **◎友だちや保育者との会話を楽しみながら、自分の思いを表現できるクラス。** ・挨拶を進んで行う大切さを伝え、自分から声をかける習慣をつくる。 ・わからない事や困った事がある時に、自分から保育者に伝えられるようにする。 ・絵本や行事などの感想を話す機会を作り、思ったことや感じたことを言葉で表現できるようにする。

各学級　学級経営案

年少	ばら	**◎基本的な生活習慣を身につけ、身の回りのことを進んで行おうとするクラス。** ・保育者が見本となり、丁寧に仕方を知らせ、理解につなげる。 ・自分でしようとする意欲を大切にし、見守りながら必要な場合は援助し、自分でできた喜びを感じられるよう言葉掛けを行う ・保育者自身の言動や導線の確保を心がけ、落ち着いて行動できるよう環境作りを行う。 **◎友だちや保育者への親しみを感じ、思いやりの気持ちを持って関わることのできるクラス。** ・保育者が仲立ちとなり、色々な友だちの存在を知らせ、声をかけたり遊びに誘ったりし、親しめるよう言葉掛ける。 ・友だちの気持ちに気づき、思いを伝え合えるように具体的な関わり方や必要な言葉を知らせていく。 **◎色々な活動に関心を持ち、楽しみながら意欲的に取り組むことのできるクラス。** ・楽しみながら取り組めるよう、導入の際に視覚的に関心が持てる物を使ったり、取り組み方にも工夫を行う。 ・子どもたちの遊びを広げ、気持ちに共感し、より興味関心が持てるよう言葉掛けていく。 **◎リズム遊びや歌に興味を持ち、自分なりにのびのびと表現できるクラス。** ・日々の保育に歌を歌ったり、手遊びをする機会をつくり、音楽に親しめる環境をつくる。 ・表現している姿を認めたり褒めたりし、表現することの楽しさを感じ、自信が持てるよう言葉掛けを行う。
	もも	**◎基本的な生活習慣を身につけ、進んで行い、けじめを持てるクラス。** ・一つひとつの仕方や流れを丁寧に知らせ、理解につなげる。・個々に合った言葉掛けや援助を行い、身につくようにする。 ・自分で出来るようになってきたら任せる部分を多くし、自主的に行えるよう見届けるとともに、最終確認をしっかり行なうようにする。 ・挨拶、返事の大切さを伝え、保育者が見本となって行なう。・家庭と連携をとり、個々の意識や意欲を高めていく。 ・頑張りや出来るようになったことを認め、自信や意欲につなげる。 **◎相手にも思いがあることに気づき、思いやりを持って関わることができるクラス。** ・子どもの思いを代弁したり、じっくり聞く時間を設け、自分の思いを言葉にしていけるようにするとともに、相手にも思いがあることに気付けるようにしていく。 ・伝え方や関わり方を一緒に考えたり、知らせたりして、気を付けられるようにしていく。 ・保育者自身も言葉づかいに気を付けるとともに、思いやりのある行動をとる。 **◎様々なことに興味を持って意欲的に取り組み、楽しさや喜びを共感し合えるクラス。** ・話し方や内容を考え、活動に興味を持てるようにする。 ・子どもたちの言葉や思い、考えを受け止めながら話や活動を進めることで、興味や意欲につなげる。 ・楽しさや嬉しさを言葉にしながら共感し、自主活動の時間も十分に設け、活動や遊びを通し、友だちや保育者との関わりを楽しめるようにしていく。 **◎リズム遊びや造形活動に親しみ、感じたことを伸び伸び表現できるクラス。** ・歌や手遊び、楽器遊びを取り入れ、リズムに合わせて表現する楽しさや友だちと合わせるおもしろさを感じられるようにする ・色々な技法や作り方を知らせ、丁寧に進めていき、身についたり自分なりに意識して取り組めるようにしていく。 ・興味や意欲につながるよう、保育者が見本となっていく。 ・一人ひとりの表現や作品を認め、自信へとつなげる。 ・感じたり、考えたことを自由に表現できる活動を取り入れていく。
	ふじ	**◎園生活での基本的な生活習慣を身につけ、進んで行おうとするクラス。** ・保育室のロッカーや靴箱の場所を丁寧に伝え覚えられるようにし、持ち物の整理整頓を進んで行えるようにする。 ・食事や活動、着替えなどの生活習慣の基本を丁寧に伝え、覚えられるようにする。 ・子どもにわかりやすいように視覚的に伝え、手伝ってほしいことなどは自分で訴えることができるようにし、進んで行えるようにする。 **◎保育者や友だちと親しみを持ち、一緒に遊ぶことや関わりを通して、喜びや楽しさを共感し合えるクラス。** ・子どもたち一人ひとりと信頼関係を持てるよう関わるとともに子どもの様子を把握し、個々に合った遊びを提供する ・子どもの成長に合わせて、集団遊びなどを取り入れ、クラスの友だちと遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 ・友だちに目を向けられるように言葉掛け、友だちの輪に入っていける環境作りをしていく。 **◎話をしっかりと聞き、様々なことに興味・関心を持ち、何事にも意欲的に取り組むクラス。** ・話を聞く姿勢を繰り返し伝えていき、意識して行えるようになるまで言葉掛ける。 ・自然や経験したことなどを視覚的に表現することで、興味関心を持てるようにする。 ・子どもたちの話を聞き、自分の言葉で思いや感じたことを丁寧に伝えられるようにする。 **◎リズム遊びや造形に親しみ、思ったことを伸び伸びと表現するクラス。** ・子どもが歌いやすい歌や興味を持っている歌、手遊びを取り入れ、楽しんで行えるようにする。 ・リトミックを取り入れ、リズムに合わせて身体を動かす楽しさを味わえるような時間を作っていく。 ・子どもの表現したいことを認め、自信や達成感につなげていき、伸び伸びと表現できるようにする。 ・子どもが自分なりにイメージしたものを表現できるように、話をしたり、導入方法を工夫し、伸び伸びと自分の表現ができるようにする。

各学級　学級経営案

年中

うめ

◎様々なことに興味を持って意欲的に取り組み、自己を発揮しながら最後までやり遂げることができるクラス。

・一つひとつの活動に興味を持ち、楽しんで取り組めるように導入の工夫や内容・進め方を熟慮する。
・それぞれの活動や遊びに継続して取り組んだり、友だちと協力し合える環境作りを行う。
・継続して取り組むことの大切さを知らせ、目標を持って取り組んだり、自発的に取り組めるようにする。出来るようになった所は十分に認め、自信や意欲につなげる。
・子どもたちの“もっと見たい・知りたい・触れたい”という思いを十分に受け止め、活動に取り入れたり、遊びにつなげ、意欲を高めて自己を発揮できるように導く。

◎友だちの表情や思いに気づき、思いやりを持って関わることの出来るクラス。

・自己主張のぶつかり合いも大切にしながら必要に応じて保育者が仲立ちとなり、相手の思いに気づき話をしたり、互いに受け入れられるよう働きかけていく。
・子どもたちの気持ちや変化に敏感になり、思いやりのある行動をとって見本となりつつ、思いやりの心や大切さを伝えていく。

◎挨拶や返事を進んで元気よく行い、思ったことや感じたことを素直に表現し、伝え合ったり、受け止め共感し合えるクラス。

・保育者が見本となり元気よく正しい挨拶をしたり、必要な言葉を知らせていく。
・素直に気持ちを表現する楽しさや、心地よさを感じられるように話し合ったり、話を聞く場を設け、大切にする。
・気持ちを伝えることが出来たら、十分に認め、大切さに気付けるようにする。難しい時は保育者が代弁したり、必要な言葉を知らせていく。
・友だちの良いところに気が付くよう働きかけ、友だちの存在を受け入れたうえで色々な経験や感情を共有したり、共感できるようにする。

◎進んで話を聞き、けじめを持って何事にも自発的に取り組めるクラス。

・話を聞く時の約束事を子どもたちと日頃より確認し、意識を高める。
・身についた事（生活習慣・運動用具・製作活動など）を丁寧に行えるよう確認・指導を引き続き行っていく。
・整理整頓を徹底する。
・子どもたちが話に興味を持って聞けるように間のとり方や問いかけ、子どもたちの意見を取り入れたりしながら、集中力を持続できるようにするとともに、考える力を育んでいく。

◎リズム遊びや造形活動に親しみ、自分なりに工夫しながら伸び伸びと表現できるクラス。

・日頃からリズム遊びや歌を取り入れ、親しみを持ち楽しんで取り組めるようにする。
・個々の表現を十分に認めながら、友だちの表現や違う表現があることにも気づき、感性を豊かにして伸び伸びと表現できるようにしていく。
・全身を使って表現する面白さや楽しさを感じられるようにしつつ、細やかな表現にも目を向けられるようにダンスの振り付けを工夫したり、題材を考慮したりする。
・素材や用具・楽器などは、子どもたちが自主的に取り組んだり、イメージが拡げられるように様子に合わせて環境を整える。

きく

◎挨拶や返事を正しく元気に行い、自分の身の回りのことを進んで行おうとするクラス。

・正しい挨拶の仕方を伝え、心の通う実感を味わえるように言葉掛ける。
・個々がどこまで身の回りのことが出来るかを把握し、見守るべき所と援助が必要な所とを見極めたうえで援助をする。
・何故行わなければならないのか、理由も理解出来るようにし、進んで行なう気持ちが持てるようにする。

◎自分の思ったことや相手に伝えたいことを伸び伸びと表現し、受け止め、共感し合えるクラス。

・一人ひとりが自分の考えや思いを伝えられる様に保育者が仲立ちになり話をし、思いを伝えられるようにする。
・中々自分の思った事を伝えられない子どもや手が出てしまう子どもは、言葉で伝えることの大切さを伝え、自分なりに伝えられるように援助する。
・自分の思ったことや伝えたい事を伝えるだけでなく、相手の思いにも気づけるようにし、トラブル等の仲立ちをする。

◎話を最後まで聞き、様々な活動に意欲的に取り組めるクラス。

・話を最後まで聞く大切さを伝え、何故聞かなければならないのか理解出来るようにし、進んで聞けるようにする。
・活動を取り組む時の導入を工夫し、子どもの関心につなげる。
・活動の内容を分かりやすく話し、最後まで活動に興味が持てるようにする。

◎様々な活動を通して感じたことを、自分なりに工夫し伸び伸びと表現する。

・活動する際に色々な技法を伝え、自分のイメージに合う技法を見つけられるよう、保育者も知識を持っておく。
・製作活動等に自信が持てない子どもには、作品を認めることで自信が持てるようにする。
・活動の中で、はさみ等が苦手な子どもには寄り添い、一緒に作れるようにし、伸び伸びと表現が出来るようにする。

各学級　学級経営案

年中	さくら	**◎友だちに思いやりの気持ちを持って関わることができるクラス。** ・自主活動や集団遊びを多く取り入れて、友だちとの関わりを深めていけるようにする。 ・自分の思いを伝えたり、友だちの思いに気付き、仲を深められるようにする。 ・友だちの良いところに気付いたり、頑張りを認め合えるよう働きかけていく。 ・自分で出来ることは自信を持ち、友だち同士で教え合いながら取り組んでいけるよう援助する。 **◎話を最後まで聞き、意欲を持って活動に取り組むクラス。** ・年少時に身についてきた話を聞く姿勢・態度を見直し、継続して伝えていくことで意識して行えるようにする。 ・話し方や話す内容を考え、興味を持って聞けるよう工夫する。 ・落ち着いて話を聞くことができる環境を整える。 ・子どもたちの考えや意見を取り入れながら、話や活動を進めていき、より意欲を高められるようにする。 ・理解できているかを確認し、出来ていることを十分に認め自身につなげる。 **◎自分の思いや考えを様々な方法で表現し、友だちと共感し合えるクラス。** ・グループやクラスで話し合う機会を設け、自分の考えを伝えたり友だちの思いに気付き、共有できるよう援助する。 ・自分の思いを伝えるために必要な言葉や方法を知らせ、友だちとの関わりの中で取り入れていけるよう見守っていく。 ・日常的に会話をする機会を多く設け、やりとりをする喜びを味わえるようにする。 **◎リズム表現や造形活動を通し、感じたことを自分なりに伸び伸びと表現するクラス。** ・歌やリズム遊び、ダンス等を多く取り入れるようにし、興味を持って楽しんで行えるようにする。 ・友だちと一緒に行う楽しさを感じたり、考えを出し合ってイメージを拡げながら活動に取り組んでいけるようにする。 ・色々な技法や素材・作り方を知らせ、自分なりに表現する力を身につけられるようにする。 ・それぞれの表現を認め、自信へとつなげる。
年長	たけ	**◎友だちの大切さを感じ、思いやりの気持ちを持って関わることが出来るクラス。** ・保育者が個々の内面を理解し、一人ひとりの個性や良さを認めていくことで、友だちの良い所に気付いたり、認めたりすることが自然と出来るようにする。 ・トラブルが起こった時は子ども同士で解決できるよう見守ったり、相手がどんな気持ちになるか考えたり、話し合う機会を設け、ぶつかり合うことを経験することで気持ちの伝え方を知ったり、絆を深められるようにしていく。 ・色々な人が支え合って生きていることを様々な活動や場面を通して知らせ、色々な人に感謝の気持ちや思いやる気持ちが持てるようにする。 ・友だち同士認め合ったり、励まし合える雰囲気作りをすることで、苦手意識のある子どもも楽しみながら意欲的に取り組めるようにする。 **◎園生活に期待を持ち、自主的に考えたり、行動し何事にも意欲的に取り組むクラス。** ・一日の流れや行事の内容、予定について伝え、見通しを持って行動できるようにする。 ・活動の中で感じることや発見、おもしろさを味わえるよう言葉掛け、興味を持ったり楽しみながら取り組めるようにする。 ・友だちと意見を出し合ったり、一緒に考えたりすることで、力を合わせることや出来た時の達成感が味わえるようにし、意欲へとつなげていく。 ・出来るようになったことを継続していくことの大切さ、場面によって応用することの必要性なども生活の中で気づけるよう働きかけていく。 **◎歌やリズム遊び、造形活動を通して、感じたことを自分なりに工夫しながら伸び伸びと表現することが出来るクラス。** ・日頃から、季節に関する歌や伝承遊びなどを知らせ、興味を持ったり楽しみながら取り組めるようにする。心情面についても知らせ、感じながら歌えるようにする。 ・様々な楽器に触れ、その楽器が奏でる音に興味を持ったり、友だちと合わせることを楽しめるよう、環境を整えたり機会を設けていく。 ・色々な素材や技法を取り入れ、イメージしたり自分なりに表現することを喜び、伸び伸びと製作活動が出来るようにする。また、じっくりと時間をかけて取り組んだり、細やかさや丁寧さについても身につけられるようにしていく。 **◎友だちと競い合ったり、繰り返し取り組むことで上達していく面白さを感じ、楽しみながら集団遊びに取り組むクラス。** ・リレーやドッヂボール等を通し、競い合うことのおもしろさ、勝敗を経験し、嬉しさ・悔しさ等の気持ちを感じ、そこから話し合ったり工夫したり、協力していけるよう働きかけていく。 ・繰り返し行うことで上達すること、何度も挑戦してみることの大切さについても知らせ、継続して行い、出来た時の達成感が味わえるようにする。

各学級　学級経営案

年長	ゆり	**◎園生活に期待を持ち、自己を発揮しながら意欲的に活動に取り組むクラス。** ・一人ひとりの姿を受け入れ、信頼関係を築くことで安心感を持ち、自己発揮が出来るようにする。 ・生活や活動の中で子ども同士で話し合う時間を設け、意見を取り入れていく事で自分たちで活動を進めていく楽しさを感じ、意欲を持って取り組めるようにする。 ・子どもの頑張りを十分に認め、充実感や達成感を感じられるようにする。 **◎友だちとの関わりを深め、相談し考えを出し合いながら活動に取り組み達成感や感動を共有するクラス。** ・協力し合うことで物事が上手くいくことや、自分だけでは想像できなかった発展の仕方に気付き、一緒に取り組む楽しさを味わえるようにする。 ・自分の思いや考えを相手に分かるように伝えたり、相手の意見を聞き入れられるように関わり方について知らせていく。 ・様々な体験を通し、一体感を感じたり思いを共有することで、仲間意識を高められるようにする。 **◎友だちや身近な人への思いやりの気持ちを持って関わろうとするクラス。** ・相手の表情や気持ちに気付けるよう言葉掛け、気持ちを考えながら行動が出来るようにする。 ・周りの人々の助けや思いやりに気付き、感謝の思いが持てるようにする。 ・異年齢活動やデイサービスセンター訪問などを通し、関わり方について話し合い考えることで行動に移せるようにする。 **◎年長児という自覚を持ち、自分の知っていることを分かりやすく伝えたり、相手の様子を最後まで見守るなどして、異年齢の友だちに関わろうとするクラス。** ・今まで自分がしてもらった事を思い返し、今度は自分たちが優しくしていこうという気持ちを持てるようにする。 ・年下の友だちへ関わろうとする姿を認め、自信につなげる。 ・他学年の友だちにも関心がもてるよう様子や活動について知らせたり、関わる機会を日ごろからもてるようにする。 ・伝え方や関わり方など、必要なことを知らせていくことで関わりが持てるようにする。 **◎一つの目標に向かって友だちと協力しながら取り組み、上達することの喜びを共感し合い、繰り返し挑戦するクラス。** ・友だちの様子に気づける言葉掛けることで関心を持ち、励まし合いや協力を進んで行えるようにする。 ・取り組む姿勢や上達していることを認め、自信・意欲につなげる。

2．平成２６年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針」のもと、さらに平成26年度教育目標（教育指針）を確立し、継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。異年齢児同士で活動する教育日数を増加し、その内容を充実させた。

また、本年度は従来の「文化祭・作品展」と称しての本園父母会主宰事業である「バザー」を休止し「作品展」のみとし、単独事業とした。これにより、広く保護者に園児の製作について鑑賞の場を充実させたこととなり、意義ある教育事業となった。

3．自己評価項目の内容と達成及び取り組みの状況

本園は、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施している。継続して平成26度においても、これを実施した。教員は、従前通り学期毎に評価項目に沿って自己点検・自己評価を行った。特に本年度は、その評価項目の一部を修正した。これは、教師自らが指導や子どもとの関わり、並びに子ども同士の関わりの援助について省みて、本園教育内容のより充実を目指す趣旨を以ての修正とした。

以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

尚、**「教員 自己評価・詳細」**と**「園長・主任 自己評価」**及び**「幼稚園運営の自己評価」「幼稚園管理に関する自己評価」**に分類してこれを公開する。

教員自己評価　詳細

分類	教員　自己評価項目				園長・主任　自己評価項目	
	A	教育方針・指導計画	G	家庭連携	※	幼稚園運営の自己評価
	B	健　康	H	安全管理	３段階にて自己評価 A　十分、達成されている B　達成されている C　取り組んでいるが成果が十分でない	
	C	人間関係	I	学級運営		
	D	環　境	J	業務全般		
	E	言　葉	K	研修研究		
	F	表　現				

A．幼稚園教育の基本方針と指導計画・保育内容と記録、組織

NO 1　園の教育方針(教育目標)を理解しているか

内　容	教育理念・基本方針が明文化されているか（学校評価、ＨＰ他、一般公開）十分、理解・認識している。	A
	園の教育方針（教育目標）を保護者や第三者に説明することができる。	A
	教師が各自、幼稚園教育要領を手元に置き指導計画作成の際や機会あるごとに目を通している。	B
	教員として、本園の（教育方針）自らの学年における目標を理解している。	A
	幼稚園教育要領のそれぞれの領域における考え方が、指導計画に反映されて実践している	A
参考物	本園の教育理念・教育目標・保護者への説明プリント・ＨＰによる公開内容。学校評価。	

NO 2　指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものになっているか

内　容	幼児期の特徴を理解して、それぞれの時期における発達の流れを承知している。	A
	それぞれの子どもの興味・関心の赴くもの、また友だちとの関係について考慮している。	A
	担任だけでなく、それぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場が設けている	A
	一日の反省評価を記載し翌日に主任・園長の確認を受け自己反省として把握している	A
	個々の子どもの発達の様子、生活の様子について指導要録以外にも記録があり、また子どもの発達状況、生活状況について話し合う機会が定期的又は必要に応じ設けられている。	A

NO 3　指導案(週日案)を重要なものと位置付けているか

内　容	子どもの発達の姿にすべて配慮した指導計画・案となっている。	A
	指導計画、月案・週案などを確認し具体的なねらいを設定した日案を立てている。	A
	活動内容は発達の過程、子どもの興味・関心、生活の流れに応じているか確認している。	A
	計画は、ほかの教員にも知らせて、相互確認をしている。	A
	計画は、子どもの状況や天候などに配慮し、柔軟に実施されている。	A
	思い思いの活動と、クラスや全体での活動のバランスを考慮している。	A

NO 4　教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか

内　容	教職員間で子どもの様子や変化についての情報交換を行い、情報の共有を行っている。	A
	特に配慮が必要な子どもについては、個別の話し合い（放課後ミーティング以外）が行われている。	A
	教職員間で連携をし、その子の発達援助を学年として、若しくは全員で行っている。	A
	特に配慮が必要な子どもについては、家庭での状況を把握すると共に、家庭に園での様子などを伝えている。	A
	教育課程にもとづいて、子どもの発達の状況を把握している。	A
参考物	子どもの育ちの記録	

NO 5　記録の点検・確認がなされているか

内　容	園日誌、幼児個人記録、行事の記録などの記入状況が点検されている。	A
	保育の記録や評価・反省は一定の様式・記入の仕方に従い、記載されている。	A
	記録は適切に保管・整理されている。	A
	保育の振り返りや、次回の計画の際に記録を活用している。	B
	記録・企画書・その他帳票類を上手に活用している。	A
参考物	園日誌、幼児個人記録、反省会議事録、企画書、行事の記録など	

NO 6　教職員間で諸会議が適切になされているか

内　容	連絡会議や職員会議などが、経常的に行われているが（放課後ミーティング）、確実性を以て意識している。	A
	直近の行事や予定など園の計画は、職員会議で周知徹底し、資料によって、わかるように整理している。	A
	会議録・記録簿等　自らが整理してファイリングしている。（個人）	B
	会議の際、意見が積極的に出している。	A
	子どもの発達に合わせた園環境の見直しについて、意識している。	A
参考物	会議録	

NO 7　子どもの様子を評価・反省し保育に生かしているか

内　容	その日の成長の様子や、変化が見られた子どもの様子を記録したり、他教員と話し合っている。	A
	その日のねらいが達成できたか評価・反省している。	A
	反省を生かし、教材研究を行っている。	A
	翌日や週の保育活動や環境構成に生かしている。	A
	反省、評価の方法が、どのように保育に生かされたか、確認している。	A

NO 8　日常の保育が適切に記録し活用されているか

内　容	指導案や幼児個人記録には、保育内容や出来事が記録されている。	A
	個人の記録は、決まった様式・観点で継続的に行っている。	B
	個人の記録は整理し、活用している。	A
	指導要録は進級、進級時に引き継ぎがなされている。	A
	個人の記録の取り扱い、および保管については十分に注意している。	A
参考物	幼児個人記録簿	

NO 9　組織的な仕事がなされているか

内　容	各教職員の役割の分掌と責任が明文化されていてしっかり意識している。	A
	職務の実施内容・検討事項などが記録・整理され、活用している。	A
	日ごろから、円滑に組織的な仕事が行われるよう改善に努めている。	B
	年齢・経験の隔たりなく話し合っている。	A
参考物	教職員・園務分掌表	

B．健康

NO10　子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか

内　容	子どもが安定感を持って行動できるよう教師との信頼関係が築けている。	A
	戸外・室内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている	A
	指導案に子どもが伸び伸びと遊びこめる時間が設けられている。	A

NO11　子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか

内　容	子どもの目が自然と戸外に向くように自然物を豊かにしたり、固定遊具の配置に留意して室内から戸外への動線が連続するようにしている。	A
	教師がモデルとなって戸外で遊ぶ面白さを伝えるようにしている。	A
	子どもが戸外で遊ぶ時間を十分確保している。	A

NO12　子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている

内　容	子どもが今、どんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解している	A
	子どもの興味・関心を喚起するような環境構成をつくっている。	A
	日々の保育がある特定の活動に偏る事の無いように計画している。	B

NO13　健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか

内　容	遊びや食事の時間等、子どもたちが園生活のリズムを身につけていける指導を行っている	A
	園における生活の仕方を知り、子どもたちが自分で生活や遊びの場を整えていける指導を行っている。	A
	危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。	A

C，人間関係

NO14　子どもが自分で行動することの充実感を味わえるような援助を行っているか

内　容	子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように常に教師が身近にいる。	B
	集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。	A
	子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。	A

NO15　自分の保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか

内　容	トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助している。	A
	友達に自分の思いを伝えようとしている子どもに対して見守り必要な援助をしている。	A
	教師や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考える機会を設けている。	A
	異年齢児との交流の機会が設けられるよう常時意識している。	A

D．環境

NO16　園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか

内　容	子どもたちが社会的ルールや善悪の判断を身につけていくよう配慮している。	A
	当番活動を日常生活の中でしっかり行っている。	A
	異年齢児との交流を日頃より意識して行っている。	A
	友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。	A
	子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行っている。	A

NO17　年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか

内　容	本園教育課程を理解、認識し学級の園児以外にも多く関わった。	A
	異年齢の存在を認識することから段階的に園児に助言、指導した。	A

NO18　身近な環境に親しみ、様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか。

内　容	園内の自然環境を整備し、活用している。	A
	子どもが、（動）植物に接する機会をつくっている。	B
	季節感のある素材を保育に活用したり季節にあわせた室内環境を工夫している。	A
	子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。	A

NO19　幼稚園全体の環境構成に十分配意しているか

内　容	自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。	A
	園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。	A
	掃除や整理整頓に心がけている。	B

NO20　子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか

内　容	子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。	A
	自分を表現する力が十分でない子どもに対しては表情やスキンシップなどを通して心情を読み取っている。	A
	毎日または定期的に教師と子どもたちとの会話の時間を設けている。	B
	子どもにわかりやすい言葉でおだやかに話している。	A

NO21　子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか

内　容	子どもの遊びや活動の広がりに臨機応変に対処するよう心がけている。	A
	その日の子どもの活動の様子を振り返りながら翌日若しくは今後の環境を整えている。	A

NO22　保育室(クラス担任の保育室)の環境に常々、留意していたか。

内　容	活動の場としての保育室を常々「清潔」「整理整頓」「危険防止安全対策」に留意して	A

NO23　日常保育のための環境構成を適切に行っているか

内　容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	B

E．言葉

NO24　子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか

内　容	子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意し、子ども達に活用を促している。	A
	玩具や遊具、教具が十分に事前に用意されている。	A
	子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。	A
	子どもが、遊びこむ時間を確保している。	A

NO25　子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか

内　容	グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進めていけるような機会を設けている	A
	戸外遊びや自由遊びなどの時間を十分に設けている。	A
	子どもたちで解決できそうな場合は、教師が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。	A

NO26　生活や遊びの中から出てきた言葉やアイデアが保育に生かされているか

内　容	子どもたちの話の中から出てきた疑問や発見を受けとめクラスで話し合ったり、実際に確かめたりしている。	A
	子どもたちの発想や思いをもとにして<例：描画・お話づくり・劇遊び・リズム表現等などの活動につなげている。	A

NO27　子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行えているか

内　容	教師が率先して挨拶をし、親しい雰囲気をつくっている。	A
	挨拶の大切さ、意味を子どもたちに伝えている。	A

NO28　絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか

内　容	子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。	A
	行事や季節、またそれぞれの学年に応じたものを選んでいる。	A
	絵本や紙芝居は事前に内容を把握し、子どもに伝わるように読み聞かせている。	A
	落ちついた、ゆったりした時間の中で、１日に一度は（若しくは数日に一度）必ず絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。	B

F．表現

NO29　子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか

内　容	子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教師が受け止め共感している。	A
	子どもが自分なりの思いで描いたり、イメージしたものをつくろうとしている気持ちを受け止め共感している。	A
	子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。	A

NO30　子どもが生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか

内　容	子どもの興味や関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。	A
	保育室など子どもが見られる所に絵画等を展示している。	B
	子どもに刺激となるさまざまな素材や保育教材が準備されている。	B

NO31　子どもが自由に音や動きで表現する機会が設けられているか

内　容	子どもが様々な楽器に触れ、楽しむ保育をしている。	A
	教師が先回りして指示したり、性急に技能的なことを求めたりせず、子どもに自由感を持って活動させている。	A
	教師も子どもと一緒になって表現する事が楽しいという姿勢が持てている。	A
	身体を使った様々な表現あそびが取り入れられている。	A
	子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられている。	A

NO32　子どもの作品が工夫して飾られる等、丁寧に扱われているか

内　容	一つ一つの作品について、教師がその面白さや大切さを理解するように努めている。	A
	子どもの作品に対する思いや、その作品に関する話を受け止め記録している。	A

G．家庭連携

NO33　子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか

内　容	日常の様子などは、必要に応じて電話連絡している。	A
	けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。	A
	クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」で確実に伝えている。	A
	保育参観や懇談会において保育内容をより理解してもらえるようにようにしている。	A

NO34　保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。

内　容	保護者の相談や質問には、丁寧に対応している。	A
	保護者と個別面談や電話連絡などを通じ定期的に子ども一人ひとりの共通理解に努めている。	A
	園の様子や子どもの発達理解のための情報提供に努めている。	A
	個別の課題や目標に応じ、保護者と連携して達成に努めている。	B
	子どもの成長や変化を保護者に伝え、喜びを共有するよう努めている。	A
	個人懇談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。	A
	子どものことで「家庭（保護者）への連絡」を怠ったことはない。	A
	知り得た家庭事情や子どもに関する情報を他人に漏らさないようにしている。	A
	保護者の家庭状況や変化を把握している。	A
	特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応がなされている。	A
	電話連絡などで、こまめな相互連絡を心がけている。	A
	保護者が理解しやすい、日ごろからの関係・環境を作っている。	A
	保護者理解と個別対応がなされている。	A
	教職員同士での保護者理解のための情報交換・共有をしている。	A

NO35　苦情解決のための取り組みを行っているか

内　容	苦情や質問の苦情解決のための仕組みを工夫している。	A
	教職員が聞いた保護者の苦情や質問などは、主任や園長に確実に伝えている。	A
	苦情の内容と、その解決方法はすべての保護者に情報として提供されている。	A
	苦情については、職員が保育を改善するための前向きな意見としてとらえている。	A

H．安全管理

NO36　室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。

内　容	遊具・設備備品・保育室内・園庭等戸外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストが作成されていて運用している。	A
	安全管理担当者（火元責任、倉庫点検など）を決めて職務を遂行している。	A
	事故や怪我の報告書などがあり、記載し、それをもとに再発防止に努めている。	A

NO37　緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか

内　容	緊急時行動に関するマニュアルを周知徹底、理解把握している。	A
	通報先（警察など外部）にすぐに連絡ができるようにしている。	A
	教師間への連絡連携が取れる体制になっている。	A
	防御スプレー、さすまた等、すぐに使えるようにしている。	A
	消火器の位置を把握し、使い方を理解している。	A

NO38　薬品の取り扱いに十分配慮しているか

内　容	薬を飲ませる場合は、保護者の依頼を受け確実に与薬している。	A
	救急医薬品の置き場所、並びにその内容は確実に把握している。	A
	清掃用などの薬品は、確実に保管するように配慮している。	A
	子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教師にも周知されている。	A

NO39　園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか

内　容	衛生管理について、しっかり意識して実行している。	A
	遊具や玩具が使いやすいように工夫している。	A
	常に園児の「安全」に気をくばっていたか。通園バスの進入の際や遊具の活用の際等。	A

NO40　安全・衛生点検に心がけているか

内　容	日ごろから安全・衛生意識の確認を行っている。	A
	定期的に、安全・衛生点検を実施している。	A
	点検リストが準備されていて確実に対処している。	A
	環境構成の際に、安全・衛生点検の視点を組み込んでいる。	A
	行政などからの情報を把握し(光化学スモック情報、PM2.5情報等)、教職員で情報を	A

NO41　園児の受け取り、引き渡しに関する安全の確認がなされているか

内　容	園児の受け取り、引き渡しの手順が定められている通り対応している。	A
	教職員間で手順や方法について、定期的に確認し、保護者にも周知している。	A
	父母でない者への引き渡しのルールがあり、周知されている。	A
	子どものその日の健康状況などを見て、確認している。	A
	子どもの受け取り、引き渡し場所（バス通園・直接園）の安全を確実に確認している	A

NO42　施設・設備、遊具に対する安全対策ができているか

内　容	職員ひとりひとりに、危険・安全について意識を高めている。	A
	点検リスト、点検簿があり、定期的に記録している。	A
	複数の教員により点検を確実に実施している。	A
	不備が見つかった場合、緊急度を考慮して対応している。	A
参考物	点検記録簿・マニュアル	

NO43　不審者への対応がなされているか

内　容	日常から子どもへの、啓蒙活動をしている。	A
	子ども・職員に、防犯教育を行っている。	A
参考物	不審者対応マニュアル　監視カメラ　不審者対応のための防具類　緊急連絡の設備方法	A

NO44　事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか

内　容	事故の危険がある場所をチェックし、改善に努めている。	A
	事故発生時の対応マニュアルが作成されていて、保護者に周知されている。	A
	教職員間で事故発生時の対応の仕方や分担の話し合いがなされ、連携のとれる体制が作られている。	A
	保護者へ、事故の経緯・対応や改善策が説明されている。	A
	事故対応後は、速やかに問題点を明らかにし、改善策を講じている。	A
参考物	事故記録簿・報告書	

NO45　弁当・給食における安全衛生対策がなされているか

内　容	弁当・給食の保管場所に留意し、適切に管理している。	A
	子どもの食事に注意を払い、喫食状況を把握している。	A
	保護者にバランスのとれたメニューや、食育についての情報提供を行っている。	A
	子どものアレルギー状況を把握し、適切に対応している。	A

Ⅰ．学級運営

NO46　保育室は整理・整頓が行き届き、安全にも配慮した環境にしているか

内　容	掃き掃除や拭き掃除が行き届いていて、いつも清潔な環境で子どもを迎えている。	A
	子どもの動線なども考え、安全に配慮した環境になっている。	A

NO47　個々の子どもの心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をしているか

内　容	登園後や降園前に視診をして、子どもの心身の状況を把握している。	A
	子どもの内面を見ることを心がけながら、保育をしている。	A
	一人ひとりの子どもが、落ち着いて遊んだり生活できる場になるように工夫している	A

NO48　子どもとの信頼関係の確保に努めているか

内　容	クラスの子どもには、ひとりひとりに対して毎日言葉がけをしている。	A
	園全体の子どもの名前を覚えている。	A
	スキンシップやあそびを通して、子どもとの関係を深めている。	A
	子どもへの言葉遣いや対応が適切であるか、教職員間で確認している。	A
	子どもの自主性を尊重し、好ましい人間関係を作っている。	A

NO49　日常保育のための環境構成を適切に行っているか

内　容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。	A
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている。	A
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。	A
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。	A
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。	A

J．業務全般

NO50　社会人としての最低限の職場のマナー、礼儀は自分でできていると思うか

内　容	挨拶、笑顔、電話応対、言葉づかい。態度、マナー、行儀。	B
	職員間での約束事、業務として教員会議で決定されたことを貴女は遵守しているか。	A
	期限や取り決めの時間を遵守しているか。	B
	報告の義務は怠ったことはないか。	B
	園務分掌・行事の担当者それぞれと十分に協議を行い「企画」したか。先輩職員の説明や同輩、後輩の職員の意見なと活発な取り組みの姿勢があったか。	A
	会議での発言、発表、説明などは十分に行えたか。	A
	広い視野にたって「園児」「業務」を観ているか。	A

NO51　日常業務について

内　容	園からの配布物(手紙等)は、決められた期日に配布している。また、その内容を熟知し理解している。	B
	金品の徴収や納付金は、第一預かり者としの責任をもって対処している。	A
	経費節減のため、無駄な教材使用やコピー節減に意識して努めている。	A
	園務分掌、行事担当、その他の役割分担をしつかり意識し、消化し業務を遂行している。	A

K．研修と研究

NO52　園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか

内　容	主任他、他教員とコミュニケーションをよくとり、他の教師の助言や保育技術を参考にしている。	A
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。	A
	保育について教職員間で話し合ったり、指導や協力体制が確立されている。	A
	自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。	A

NO53　専門書や雑誌を読む等、保育技術を高めるための努力をし、習得した事を実際の保育に生かせているか

内　容	定期的に購読している教育書や保育雑誌がある。	A
	公開保育に積極的に参加したり他の教師の保育の様子を見学するよう努めている。	A
	夏期休暇等を利用して研修・教材研究を行っている。	A

NO54　教材の研究、題材の研究をその活動ごとにまたは、定期的に行ったか。

内　容	定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について研究した。	A
	「教材研究」を日頃より留意し、保育に生かせている。	B

NO55　食育について、どのように取り組んでいるか

内　容	園として食育に取り組み、教員して実践している。	A
	教員間で食育について話し合い、共通理解を図っている。	A
	折にふれ、保護者に食育の方針について説明をしている。	B

幼稚園運営の自己評価

幼稚園教育の基本方針と組織

1－1	園長・主任教諭は、リーダーとしての責任を果たしているか
内　容	園長・主任は、園運営に関するビジョンの提示やさまざまな情報収集と提供を行っている。
	園長・主任は、園運営の中心となり、教職員と協力して問題解決に努めている。
A	積極的に研修会に参加し、自己研鑽を図り、相談力・助言力・説明力・調整力・リーダーシップなどの向上に努めている。
	折にふれ、園長の保育観や考え方を教職員や保護者に伝えている。
	教職員と一緒に問題解決について、適切な判断が行われているか点検・評価を行っている。
備考	園長のビジョンを明文化し伝える物

1－2	地域交流と貢献を心がけているか
内　容	教職員は地域交流や貢献の大切さを理解している。
	園の行事などに積極的に地域の人の参加を呼びかけている。
A	日常において地域の人との信頼関係を積み重ねている。
	積極的に地域の文化・自然を活用して保育を実践している。

保育内容の確認［幼稚園全体］

2－1	環境問題への配慮がなされているか
内　容	節水、節電に努めている。
	保育の中で環境教育を行っている。
A	自然体験を通して、環境の大切さを知らせたり、深める活動を取り入れている。
	園での取り組みを保護者に知らせ、理解してもらっている。
	地域との連携を意識して行っている。

保育内容の確認［教員］

2－2	行事の配置は適正か
内　容	年間行事計画を作成している。
	その年の子どもの実態に合わせ、行事を編成している。
A	個々の行事について教職員と十分に話し合い、必要に応じ見直しを行っている。
	日本の文化や季節感のある行事を取り入れ、子どもに伝えている。
	保護者や地域の人たちとの関係作りに配慮している。
備考	年間行事計画

研修と研究

３－１	人材の計画的な確保、育成をしているか
内　容	保育に必要な教職員数を計画的に確保している。
	園外の研修の参加を促進し、また園内の研修の実施に努めている。
A	社会人としての良識とマナーを含めた研修を実施している。
	研修担当をしっかり決め、責任をもって新人の育成にあたっている。
	非常勤職員にも、園の方針について研修を行っている。

３－２	園外研修が適切に行われているか
内　容	園外研修に出やすい雰囲気を作り、積極的な参加を促している。
	参加者は、目的意識をもって事前の準備をし、参加するようにしている。
A	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。
	年間を通して、計画的に園外研修を行っている。
	一年間を反省し、次年度の計画を立てている。

３－３	特別支援に対応しているか
内　容	支援を必要とする子どもの受け入れの必要性を共通理解している。
	教職員は、日ごろから支援を必要とする子どもに関する一般的理解を深めるよう研修会に参加している。
A	個々の子どもの理解が進むよう、保護者、教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図っている。
	医療機関や関係機関と連携をとり、必要な情報を全教職員が共有している。
	支援が必要な子どもに沿った環境整備がなされている。

３－４	いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われているか
内　容	いじめ・差別・性差別などについて教職員の共通理解、情報交換を行っている。
	いじめ・差別・性差別などの課題について、保育の中での取り扱いに留意している。
A	子どもや保護者にもわかりやすい説明を行っている。
	研修会に参加し、専門的な知識を得るように努力している。
	保育のなかでも、子どもたちにわかりやすく説明をして理解をしてもらっている。

３－５	幼小連携に努めているか
内　容	幼小の連携の必要性を理解している。
	発達や学びの連続性を理解し、スムーズな接続に向けて教職員の研修を図っている。
A	小学校との情報交換や連携に努めている。
	子どもたちに進学の期待や心構えなどを話す機会を設けている。
	保護者に対して、進学の心構えや、先輩の体験談などを伝える機会を設けている。

幼稚園機能の拡大

４－１	地域の子育て支援に対応しているか
内　容	幼児期の地域の教育センターとしての役割や、子育て支援の意義を理解し実施している。
	子育て支援について、教職員の協力体制や情報交換を心がけている。
A	子育て情報の発信や、地域の施設・機関と連携した子育て支援を心がけている。
	未就園児への対応や、園庭開放を行っている。
	安心して悩みを相談できる、子育て相談の場を提供している。
備考	告知情報媒体など

４－２	未就園児への対応を行っているか
内　容	計画、案内が地域に知らされている。
	意義を理解し、実施している。
A	目的や使命を教職員に伝えている。
	子どもの状況に応じた対応を心がけ、保護者ニーズを把握している。
	子ども同士に限らず、保護者同士の交流にも心がけている。
備考	告知情報媒体など

４－３	預かり保育を適正に実施しているか
内　容	子どもの一日の生活を考慮し、施設や設備などの環境を整えている。
	子どもが長時間過ごすことができるよう、生活リズムに配慮し、保育内容や方法を工夫している。
A	担当者とほかの教職員の協力体制や、情報交換を心がけている。
	預かり保育を利用する保護者との緊密な連携を心がけている。
	正規の教育時間内の活動に、支障のない範囲で行っている。
備考	預かり保育日誌　園案内

４－４	実習生の研修の場の提供を適切に行っているか
内　容	実習生の受け入れ体制を整備している。
	実習生受け入れの意義を、教職員間で共通理解している。
A	実習生には、事前研修、オリエンテーションなどを行っている。
	幼児教育の大切さや、園の方針・園児とのかかわり方の基本などを知らせている。
	養成校と連携し、情報交換を心がけている。
備考	研修リスト　実習生の保育日誌　実習生心得

４－５	情報公開を適正に行っているか
内　容	私学法や設置基準で定められた園の情報を、わかりやすく情報公開するように努めている。
	ホームページなどの電子媒体や掲示板、手紙などを利用し、広く園の方針・活動を地域に知らせている。
A	園便りや、クラス便りの定期的な発行など、保護者を対象として情報の提供を行っている。
	保護者や地域の人などに、園の活動や地域における幼児教育のセンターとしての活動についての情報公開をしている。
	自己点検・自己評価の結果についての情報公開を行っている。

諸法規の遵守

５－１	健康診断を実施しているか
内　容	子どもの健康診断を定期的に実施している。
	子どもの健康診断の結果は、保護者に知らせている。
A	診断の上、気になる子がいたら、園医・教職員・家庭と連携を図っている。
	健康診断を子どもの健康な発達のために生かしている。
	教職員の健康診断を毎年実施している。子どもの健康の記録・教職員の健康診断の記録

５－２	労働基準法に対応しているか
内　容	法改正に応じて、就業規則および関連協定が整備され、遵守されている。
	新しい規則に対応した就業規則および関連協定の届出がなされている。
A	労働協定・就業規則・給与規定、旅費規程、履歴書、雇用契約書、成績証明書、免許証の写しなどが整理保管されている。
	教職員が必要な書類を閲覧でき、また内容について周知する機会を設けている。
	常に職員の労働環境について配慮している。
備考	就業規則　諸規定　労働基準局への届出　教職員履歴書つづり　勤務時間管理

５－３	道路交通法に対応しているか
内　容	園車両や教職員車両の任意保険加入状況および更新時の内容を確認している。
	定期的に安全教育や、話し合いを実施している。
A	定期的に車両の整備状況を確認している。
	事故の際の対応手順は、定められたマニュアルがある。
	園周辺の交通安全には、特に配慮している。
備考	バス運行マニュアル・運行記録　地図　安全運行の保護者への周知　保険契約

５－４	虐待防止などの対策、対応がなされているか
内　容	虐待の発見や防止のための研修や話し合いが行われ、教職員の共通理解がなされている。
	発見や疑念をもった場合の対応方法のマニュアルがある。
A	関連施設との連携を図っている。
	保護者にも虐待防止についての説明がなされている。
	普段から子どもの様子や変化に注意を払っている。
備考	視診・対応マニュアル　虐待防止に関する話し合い記録

リスク対応

６－１	任意保険の確認を行っているか
内　容	賠償、傷害、火災、自動車保険に加入している。
	更新時には、賠償内容の説明を受け、補償額の確認をしている。
A	教職員、保護者に保険内容を周知している。
	園児ひとりひとりが傷害保険に加入している。
	常に園の抱えているリスクをイメージして、保険を考えている。

６－２	社会的事件からの学習、対応がなされているか
内　容	子どもに関連する事件・事故の情報収集を全教職員が行っている。
	収集した情報にもとづき、教職員間で問題を把握、共有し、対応策を講じている。
A	関連情報や対応策を保護者に説明している。
	地域や保護者との連携を図っている。
	子どもたちに安全教育を施している。

６－３	コンピューター・インターネットの安全管理がなされているか
内　容	コンピューターの故障、ウィルス対応のためのバックアップ対策がしてある。
	コンピューターの盗難、廃棄の際の情報管理がなされている。
A	ホームページの管理は定期的に決められた人がチェックしている。
	コンピューター本体、重要なデータなどは、厳重に管理している。
	個人情報ファイルには、必ずパスワードを設定している。
備考	バックアップ　　ウィルス対応ソフト　更新　情報流失

適正な事務処理

７－１	園の重要書類の管理がなされているか
内　容	責任者を決め、重要書類の保管、管理が正しく行われている。
	災害等などの、緊急持ち出しが可能なように整理されている。
A	書類は定期的に確認され、決められた手段で処分されている。
	重要書類は、施錠できる場所に保管されている。
	持ち出しが必要な場合、持ち出しのルールや手順が決められている。

７－２	必要な書類や、公文書などの処理が適正に行われているか
内　容	公文書の受信・発信簿が整理されている。
	公文書受付時の処理担当者が決められている。
A	必要な公文書は教職員に周知されている。
	必要な書類が整備され、正しく更新されている。
	諸規定・保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管されている。
備考	公文書　園則・寄付行為・就業規則・給与規定・旅費規程・経理規定・自衛消防計画・車両運行規定

７－３	園の情報公開が適正に行われているか
内　容	保護者などから情報公開請求があった場合、法に定められた内容に従い公開している。
	保護者などから情報公開請求があった場合の、手続きや対応が決められている。
A	公開された情報が、わかりやすい情報かどうか保護者に確認している。
	情報公開すべき書類などについては、常に整理されている。
	責任者を決め、保管、管理が正しく行われている。
備考	情報公開のルール、財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書など　（私学法）

４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「教員　自己評価・詳細」「園長・主任　自己評価」における総合的な評価は「ＢまたはＡ」と評価し、教員全員が共通認識した。

尚、教員の教職経験年数により、評価項目の意識差はみられるが、これは教諭経験を積み重ねることにより、その差異は解消されるものとみなし、総合的評価を妥当なものと認識するものである。然しながら、教職経験年数の短い教員に対する指導については、時間を要することとなり、保育の質の向上の目標値への到達度及び個人の資質向上へは、多少厳しい状況となった。今後は、「すべての子ども達のために」を共通目標とし、教員の資質向上に向けての指導・助言が必要と認識した。

年度当初（2014年度４月）に「建学の精神」加えて園長より「2014年度・教育指針」を基に、担任教諭が「学級経営案」、また、学年教諭間において、それぞれ「学年目標」を設定した。これにより、取りくむべき教育目標・運営目標について、全教職員が共通理解し指標とした。

そして、教員それぞれが、学期末において、併せて日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育内容が経常的に推進されているものと確認した。

今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し、努力研鑽に励む姿勢を位置づけることができた。

５．今後取り組むべき課題

各項目の達成度を高めるよう、今後（2015年度以降）において、より具体的な対応やその具現化に向けて努力することを課題とした。また、それぞれの領域（各項目）の連携的な指導・援助が重要であり、特に「人間関係」「異年齢児活動」を重点的課題とすることを共通認識した。

幼稚園教育の本意とする「子育ち支援・援助・指導」は、もちろんのこと併せて社会的状況を鑑み「子育て支援」の両面から、2012年度より預かり保育について「時間延長・幼稚園開園11時間」を実施しているが、幼児が長時間に及び幼稚園で生活することについて環境を整える必然を感じる。併せて、預かり保育では、異年齢児による教育活動が主となることより、通常の教育活動と並行して、本園独自の「預かり保育教育内容」を考察することが今後の課題と認識する。

さらに幼稚園教育活動における幼児の人間関係の中で「協同性＝友だち（子ども同士）と話し合う中でのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）同士の活動や取り組みの中でのそれぞれの思いに気づく環境や指導と援助のあり方を真摯に見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法、並びに継続して取りくめる環境や家庭との連携の在り方について調査、研究そして努力研鑽に励むことを課題とした。

尚、本園は、これまでの特色ある、そして歴史と伝統のある幼児教育を守り、継続したいという思い、私学として教育機関としての幼稚園の位置づけから、現行制度の学校法人・幼稚園として2015年度より施行の「子ども・子育て支援新制度」による「認定こども園」への移行に関して、当面移行しないことと英断した。これは、新制度においては補助金制度の在り方や受け入れる園児の年齢等により、施設型給付を受ける幼稚園、認定こども園、私学助成を受ける現行のままの幼稚園とに分かれるが、いずれの園においても幼児教育の充実・発展を目指して取り組むことに変わりはない。しかし、新制度においては、保育を必要とするお子さんで施設利用のための２号認定を受けると原則として幼稚園に入園できず、保育所と同様、市町村による施設の斡旋が行われ、保護者が希望する施設に入れない場合がある。本園はこれまで通りの園児受入れの方針を執り、施設利用のための市町村の認定は必要なく、保育を必要とするお子さんにはこれまで通り、預かり保育を行うなど、現行のままの私学・幼稚園として取り組むこととした。但し、今後においては新制度の研究を含め、より良い幼児教育を目指し、充実に向けての取り組みが必然と認識するところであり、今後の課題である。

文末の最終項に「特筆すべき事項・こども園への移行について」改めて記載。

6． 研修内容詳細　　下記の　園内研修を実施。また園外研修に参加

関連項目　P28　「研修と研究」

⑴　園内研修・研究保育

	研　修　日　時	研　　修　　内　　容	研　修　者
1	2014年　5月　9日	製作活動　　汽車製作　　年少・たんぽぽ組	西　教諭
2	2014年　5月13日	描画活動　　遠足経験画　　年少・ふじ組	新明教諭
3	2014年　5月13日	音楽活動　　鍵盤ハーモニカ　　年長・ゆり組	長倉教諭
4	2014年　5月14日	製作活動　　折り紙製作　　年中・きく組	満村教諭
5	2014年　5月20日	製作活動　　あじさい製作　　年少・ばら組	村瀬教諭
それぞれの研究保育の後、評価・反省会議を実施			

⑵　園外研修・研究保育

	研　修　日　時	研　　修　　内　　容	研　修　者
1	2014年　4月20日	幼児期の発達障害の子どもに見られる問題の理解と対応 大阪医科大LDセンター	主任　秋吉由布子
2	2014年　4月30日	幼保連携認定子ども園の認可基準について 枚方市私立幼稚園　園長会	園長　山口尚志
3	2014年　5月28日	設置者・園長研修会 大阪府私立幼稚園連盟京阪支部	園長　山口尚志
4	2014年　5月29日	設置者・園長研修会「私立幼稚園にとってベストな着地点とは　No.1」　大阪府私立幼稚園連盟	園長　山口尚志
5	2014年　6月　5日	設置者・園長研修会「私立幼稚園にとってベストな着地点とは　No.2」　大阪府私立幼稚園連盟	園長　山口尚志
6	2014年　7月11日	設置者・園長研修会「子ども・子育て新制度　研修」 大阪府私立幼稚園連盟　大阪府私学・大学課	園長　山口尚志
7	2014年　8月20日	児童虐待問題研修会 枚方市児童虐待問題連絡会議	園長　山口尚志 主任　秋吉由布子
8	2014年　8月28日	子ども・子育て支援新制度の利用者負担の件 枚方市私立幼稚園　園長会	園長　山口尚志
9	2015年　1月15日	発達障害の基礎知識 さまざまな特性をもつ子どもの理解と支援 枚方市障害児等関係機関連絡会議	園長　山口尚志 主任　秋吉由布子 教諭　山口哲也

７．学校関係者の評価　7-1

学校関係者（並びに学校関係者・評価委員会）における意見・評価については、2014年３月５日付これを依頼し、その意見・評価を求めた。総論においては、特段に指摘すべき事項また緊急な課題とすべき事項はないが、一部の自己評価の項目において「妥当にあらず」若しくは「教員の資質向上、今後の改善取組を要す」等の各論における指摘意見があった。

これらを踏まえ、「恣意的な解釈では」との所見が存在するが、自己評価は「概ね、妥当と認められているもの」と認識する。下記（次ページ）にその意見内容を記しこれを公開する。

尚、学校関係者は、本園父母会役員並びに地域関係者諸氏あわせて21名を以て成し、意見・評価を依頼した。その評価は19名の方より回答を受けた。また、当該年度において、地域公人の方１名、本園理事会に報告する前段階として、本園理事１名（21名に含む）にこれを依頼した。学校関係者の名列はこれを非公開とする。

Ａ委員［No.１］

自己評価・学校評価ともに客観的・的確に評価されていると感じました。園全体・各学年そして各学級と項目ごとに目標が明白であり、とてもよいと思いました。その目標に対しての成果が作品展や小さな音楽会、そして集大成の生活発表会によく現れていたと思います。回を重ねるごとに子ども達の成長が目に見えてわかり、観ることがより楽しくなりました。日々の活動を知ることのできる写真の多い園日誌、とてもありがたいです。自分の子の学年だけでなく他の学年の活動や園全体の様子がよくわかり楽しく閲覧しています。これからもこの現状を崩すことなく子ども達が自ら「行きたい！」と言う幼稚園であり続けてほしいと願っています。

Ｂ委員［No.２］

自己評価の内容はすべて妥当であると感じた。各項目が細分化されており細かく目標が設定されている点から、他幼稚園のものと比較しても、本紙の内容が充実していることが見てとれた。ただ、「今後取り組む課題」が大項目として設けられているが、課題に対する取り組みに具体性が欠けていると思われる。具体的な目標を掲げ、それに対するアプローチを明確にすることで来年度の自己評価をする際の指標となり、取り組む内容が適切に評価されると思います。

Ｃ委員［No.３］

細かい目標設定に驚き、感心しました。日々子ども達のことを考え、努力されていることを感じます。毎日ブログの園日誌を更新されるのは大変だと思いますが、楽しみに拝見しております。今後とも青葉幼稚園らしく伸び伸びとした子ども達の姿を楽しみにしています。

・教員全員の自己評価がAないしBという点から、教員の方々の教育や保育に対する意識が同じ方向である事、またその意識の高さが伺えました。

目標を立て、そこに向かって行動していくことは当然のことですが、高い自己評価を出しているということは、教員の方々の自信と熱意があることを表していると思います。

７．学校関係者の評価　7-2

Ｄ委員［No.4］

建学の精神「たくましく人間性豊かな子どもをめざす」にふさわしく、また、適切に園を運営されていると評価します。各学年、各学級で細かく目標が設定され、その目標に従い、先生方が一生懸命学級運営されていると思います。子どもたちが元気にのびのびと楽しく明るく過ごせる環境を作り出せている先生方の手腕を高く評価します。

自己評価を拝見しますと、先生方の評価を厳しく見ておられるのではないかと思います。謙遜されている部分もあろうかと思いますが、自信を持って評価していただければと思います。先生方に対して様々な厳しいご意見も寄せられているかと存じますが、ごく一部の意見だけに耳を傾けず、お褒めの言葉はなかなか伝えられていないということも思慮して頂き、先生方ご自身評価をして頂ければと思います。全ての先生方が1年ごとに子どもたちと同じように成長されているのではないかと思います。

認定子ども園の移行について、現行制度を維持されるご決断を高く評価します。我々保護者は、認定子ども園に移行することにより、今ある素晴らしい保育の質が低下してしまうのではないかと危惧しておりました。今回のご英断により、その危惧がなくなり、今後も安心して子どもたちを通園させることができるので、大変嬉しく思います。今後も益々の発展と更なる保育の充実を期待しております。

Ｅ委員［No.５］

幼稚園全体、学年別、項目別、月別、学級別と、とても細かく教育目標を設定していることに感心しました。また、その自己評価においても妥当であると感じます。人間関係が希薄化する現代社会において、幼児期から人との関わりを重んじる事は大切なことです。その点において、青葉幼稚園の異年齢保育は素晴らしい。本年も昨年同様に異年齢保育に力を入れて頂きたいです。

冬期預かり保育・春期預かり保育の日数を増やしてほしいとの声や、近頃は市内の私立幼稚園では完全給食若しくは週一回のお弁当実施が主流となっていることから、今後も保護者の意見を広く取り入れ、ご検討頂きたいです。私たち保護者も園と協力して青葉っ子の笑顔を支えたいと思います。

Ｆ委員［No.６］

自己評価についてとても細かく設定されていることに感心しました。なかでも学年ごと、クラスごとにまで学級経営案があり、子どもへの熱意・心配りを感じました。こうした方針・指導のもとで子ども達は安心して楽しく過ごせているのだと思います。

２６年度に重点的に取り組んだとある作品展では、子どもが主役となり、どの子どもも目をキラキラさせて作品を説明していた姿が印象的でした。来年度はさらに人数が増えるとのことで苦慮するところだとは思いますが、変わることなく高い質を維持したままの教育が受けられる環境であってほしいと願います

Ｇ委員［No.７］

青葉幼稚園の目指す「伸び伸びした幼児の育成」は、日々子ども達が体現していることにより確信できる。今や地域でも多くの園児数を抱える園でありながらも、行事で子ども達が見せる成果の大きさは随一なのではないかと誇りに思う。また、その礎がこの細やかな教育目標に因るものなのだと考える。

認定こども園に移行しない方針について、揺るぎない歴史ある教育理念を貫き通すという毅然とした想いが伝わるものであり、青葉幼稚園で学ぶことのできる幼児教育の“質”を守って下さったことを支持致します。

Ｈ委員［No.８］

細かく教育目標を設定され、先生方も日常的に自己評価を行い、日々の保育の質の向上にむけて努力されていることに感心させられます。明るく伸び伸びと学べる環境で子どもを１番に思う保育ができていると思います。園日誌の公開も子ども達の日々楽しみ、そして成長している様子が窺えて、とても有り難いです。お年寄りとの交流など演技に出掛けることにより、色々な立場の人と出会い、色々な人がいて社会があることを学んで、思いやり・挨拶などの目に見える成長も感じられます。これからも子ども達の為に、よりより園を創って頂きたいと思います。

７．学校関係者の評価　7-3

Ｉ委員［No.9］

今年は年長児が少なく年少児が多いというバランスの中で、園の魅力の一つでもある“異年齢保育”において組むペアの様子を見ると、先生方がしっかりと子ども達のことを理解し、ペアを選んでくださっていることを感じます。残念ながら子どもが楽しみにしていた市民の森での「おにぎりタイム」は今年は無かったですが、ことあるごとに自然と触れ合い、戸外で過ごす心地良さを教えて頂いて、たくましく「生きる力」を育んでいただいていると感じます。子ども達が成長できるのは先生方が細かい目標に向けて努力されてきた結果であり、今後も楽しみです。

Ｊ委員［No.10］

とても細かく目標設定し評価制度を毎年導入・公開されており、教育者として、また幼稚園全体として常に自ら律されていることに大変驚きました。

青葉幼稚園の素晴らしい特色は沢山ありますが、なかでも異年齢活動について、これは園児にとってもとても貴重な経験をさせていただいていると思っています。園児が自然と年下を思いやる環境・歳上の行動を見て学ぶという教師からの一方的な発信ではなく園児相互の関係から学び合える点、そして、この機会を一年間を通じて何度も行われている点はとても素晴らしいと思います。また、異年齢活動の担当の教員が行事で出会った保護者に対して自ら進んで子どもの様子を細やかに教えていました。これは教員の方が園児一人ひとりをしっかり見ていただいている証拠であり、熱心な様子を感じ取れ、大変安堵したことを覚えております。

以上のことから、保護者として充分に納得できる評価であると思いますし、保護者からの相談や質問にも主任先生含め迅速に、かつ丁寧に対応していただけている点からも、信頼できる幼稚園であると思います。これからの青葉幼稚園にも大いに期待しているところです。

Ｋ委員［No.11］

細やかな教育目標が設定され、一年間を教職員の先生方が向上心高く、子ども達に一生懸命向き合って下さったことが伝わってきて、くずは青葉幼稚園の誠実さに感謝いたします。

入園を決めるにあたり、情報がたくさん詰まった資料をはじめ、園生活で日々の様子を伝えて下さる園日誌は親が安心して子どもを幼稚園に送り出せ、園生活への理解に繋がっています。子どもと保護者の間で会話が弾むきっかけになっていて有り難く思います。

子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境の設定、クラス活動はもちろんのこと、異年齢活動において、優しさ・思いやりが一層育まれていると感じ、とても良い経験になっていると思います。また、教職員の先生方の丁寧な言葉づかいや対応には、いつも子どもへの愛情を感じています。

Ｌ委員［No.12］

各学年や学級で細かく目標を設定して修正や自己評価をし、またＨＰ上で園日誌の更新が毎日あり、情報が開示されていることはとても良いことだと思います。ただ、担任によって力量不足や格差を感じるところがあります。保護者からの手紙や話の内容を理解して子ども達と関わっていただいているのか不安な場面がありました。連絡ミスや保護者からの意見をきちっと伝わっているのかという疑念がわきました。幼稚園との信頼が揺らぐことのないように今後は努力してほしいと思います。

7．学校関係者の評価　7-4

M委員［No.13］

教育目標はともすれば抽象的で分かりにくい性質を持っている為、幼稚園を選ぶ際に具体的にどのような取り組みがなされているのかを知る上で、貴園の自己評価・学校評価は貴重な判断材料であり、大変参考になりました。各項目の評価は共感できますし、妥当であると感じます。

毎日更新される園日誌をはじめ、貴園の情報公開への姿勢には頭が下がります。現状に満足することなく、目標達成に向けて組織的に取り組み、加筆修正をしながらよりよい幼稚園を築きあげるための努力をされていることが窺えます。例えば、学年・クラス毎の学級経営案も目標をさらに具体的に細かく明示したことにも更なるステップアップへの努力が如実に表れており、教諭間で情報の共有や共通理解がなされておりますので、子どもを預ける保護者としては大変心強い教育体制が整っているなと感じております。担任の先生だけでなく他クラスの先生とも触れ合う中で、子どもが「先生が大好き！！」と言っているのは、青葉の先生方が園全体で子ども達を見守って下さっているからなのだと実感しました。

入園の際も貴園の教育理念に共感し入園を決めさせていただいきましたが、これほどまでに高い意識を持って取り組まれていることを知り、日々邁進されている園長はじめ主任、並びに先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。見た目重視の華美な幼稚園も多い中、貴園では異年齢で触れ合う機会や泥んこ遊び等を通じて、伸び伸びと自己表現し子ども達が主役となり笑顔をはじけさせているのは、子どもの目線に立ち『たくましく人間性豊かな子どもを目指す』という目的に沿って、全教諭が目標達成に向け研鑽を積まれている結果なのだと思いました。

N委員［No.14］

昨年より「認定こども園への移行」について何度か話が出ていました。これからのくずは青葉幼稚園が乳児保育を実施されるのか、幼児教育の質は保たれるのかと、不安な思いがありました。園長先生の決断は、建学の精神のもと、これまでの特色付けてきた園の歴史と伝統ある幼児教育を守り継続したいという思い、『私学として・教育機関として』の幼稚園の位置付けから、現行制度の学校法人・私立幼稚園として残ることでした。

時代の変化もあり、教育環境を調えるのは困難になってくると思いますそれでも、くずは青葉幼稚園は今まで通りのクラス・学年で細かく教育目標を設定し、高い水準で達成されてきた幼児教育の質を高めていってほしいです。

O委員［No.15］

教員全員の自己評価・学校評価の公表・実施の全てが向上心を持って、取り組んでおられる姿であり敬服する。教育目標は地道な努力と実践が今日の高評価されている結果につながっていると考えられる。地域の子どもを持つ方々から常に細かい配慮がされているという様子をよく耳にする。

子ども子育て新制度への移行についての件であるが、「地域の幼児教育・子育てに貢献していくことこそが青葉幼稚園に求められる役割であり、使命であると考え、目先の補助金の増額に惑わされることなく、使命を果たす為にも“学校法人山口学園　くずは青葉幼稚園”として存続する英断にいたる。」　この言葉に拍手を送ります。前理事長・創立者山口亨先生のお姿が瞼に焼き付いています。

７．学校関係者の評価　7-5

Ｐ委員［No.16］

学年にあった目標がしっかり立てられ、実行されていると感じました。音楽会や生活発表会は子ども達がとても生き生きとして楽しそうですが、劇やリズム表現において教員のピアノ技術は大変重要です。お忙しいとは思いますが、技術向上に努めることは子ども達にとってプラスになると思います。

Ｑ委員［No.17］

「幼児の心身の成長発達を助長し、明るく伸び伸びとした集団生活を行う」に関して、この一年間の子どもの様子と照らし合わせるとその通りに過ごせたと感じます。その裏には先生方の細かい目標設定・配慮・自己評価等のおかげだと思いました。

ＨＰ上の「園日誌」では参観とは違い、普段の様子が見られ大変有り難く思っております。変顔の写真を子ども達と一緒に見て大笑いしたり、癒されたりしています。

「園外研修」で学ばれたことで、私たち保護者にも情報や家でできることがあれば是非教えて頂きたいと思いました。

最後に、園長先生・先生方は多忙な毎日だと思います。どうか体調に気を付けて笑顔で来年度も子ども達の為によろしくお願い致します。

Ｒ委員［No.18］

自己評価を拝見し、全てが妥当であるとは思いません。全ての先生方にあてはまらないと思いますが、ある先生は、何人かの保護者の方から連絡帳のコメントがない等を聞きました。また、行事を参観するに子ども達がイキイキとした表情に乏しい様子をみてがっかりするときもありました。園内の研修をもっときめ細かに実施する必要があると思いました。次年度改善されることを願います。

Ｓ委員［No.19］

くずは青葉幼稚園の特色として挙げられるのは、情報発信についてである。ホームページ上の「園日誌」で、一日の出来事から園長の思いまで、さまざまな情報が得られる仕組みになっており、土日も問わず日々タイムリーな情報が得られると好評のようである。こうした情報発信は、私立幼稚園にとって、今やインターネット環境を有していない人の方が少ないと言われる今日では非常に重要なファクターとなっている。また、それは同時に保護者やお家の方に対する説明責任を果たすことにもつながっている。自宅にいながらにして、その日の出来事や教育の様子がある程度わかるということは、安心材料にもなる。さらには、園児の帰宅後の家での会話にも生かすことができるという意味では、何重もの効果が見込める。

園日誌をよく観ていくと、教育の過程において園長自身が登場することがままある。それだけにとどまらず、園長個人の消防団員としての活動や奉仕団体での運動についても触れてあることがある。こうして園長が率先して幼児教育に携わっていることが確認できることや、園長自身の個性人格に接することができることは、保護者等にとってはこの上なく安心できることだと思われる。

結局のところ、これほどの情報発信ができるということはそれ自体が、園での教育内容に自信があるということを示している。こうした情報発信は、今後もたゆまぬ努力を続け、継続してほしい。

Ｔ委員［No.20］

・今後の課題については、課題に対する具体的な取り組み内容を記載頂ければ、より良かったように感じます。また、当然実施されてるかもしれませんが、自己評価の低い内容についての原因確認と今後の取り組みを検討して頂き、より一層子供達がのびのびと育つ環境にして頂ければ幸いに存じます。

・私自身これまで園での子供の様子などは運動会等の催事やブログでしか見ることができませんでしたが、このような内容を公開頂けることは親として安心に繋がります。また、よく担任の先生から子供のことでお電話を頂戴し、気にかけて頂いていることにとても感謝しております。

改めてなぜ青葉幼稚園を選んだのかと夫婦で話した時に、どろんこ遊びや乾布摩擦をしていることなど、まさにのびのびとたくましく育って欲しいという私どもの考えが入園に至った理由の一つでしたので、これからもより良い環境作りに取り組んで頂きますようお願い申し上げます。

８．財務状況

平成26年度財務状況は、学費収入において平成25年度対比／学籍25名の園児数増加により、学費収入は増額となった。平成21年度より継続して改修工事を施行し、当該年度においては、平成26年12月・防水塗装改修工事を冬期休業中に実施した。これにより支出が拡大し、財務状況は厳しい状態の決算となる見込みである。当該塗装改修工事は、園児を取り巻く大きな環境整備とし、改修実施を英断した。

尚、平成27年度は、７４名の入園児を受付、学籍は２０名程度の増加が見込まれることとなった。平成26年度財務状況については、決算関係計算書類一式が調い次第、これを公開する。［2015年５月予定］

平成26年度の財務状況については、監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

９．その他、特筆すべき事項

「認定こども園への移行について」

平成24年８月にできた法律「子ども・子育て関連３法」をもとに「子ども・子育て支援新制度」が、さまざまな課題が解決されないまま、平成27年４月からスタートとなる。この新制度をもとに、幼稚園、認定こども園、保育所の在り方が整備され、子育て支援のための大切な制度とされ、その目的は、子育ての負担を減らすこと、待機児童問題の解消、少子化に歯止めである。この制度で私立幼稚園は大きく分けると３つのタイプになり、どのタイプの幼稚園に通園するかを保護者の選択となる。一つは、新制度に移行しない私立幼稚園。新制度に移行する私立幼稚園。そして新制度の認定こども園となる。

これらの状況の中、**本園は建学の精神のもと、これまでの特色付けてきた本園の歴史と伝統のある幼児教育を守り継続したいという思い、「私学として、教育機関として」の幼稚園の位置づけから、現行制度の学校法人・私立幼稚園として残ることとした。**

何故、新制度に移行しないか

新制度においては補助金制度の在り方や受け入れる園児の年齢等により、施設型給付を受ける幼稚園、認定こども園、私学助成を受ける現行のままの幼稚園とに分かれるが、いずれの幼稚園においても幼児教育の充実・発展を目指して取り組むことに変わりはない。然るに新制度においては、保育を必要とする幼児で施設利用のための２号認定を受けると原則として幼稚園に入園できず、保育所と同様、市町村による施設の斡旋が行われ、保護者が希望する施設に入れない場合がある。本園はこれまで通りの園児受入れの方針とし、施設利用のための市町村の認定は必要なく、保育を必要とする幼児にはこれまで通り、「預かり保育」を行うなど、現行のままの幼稚園として取り組むこととした。

認定こども園の「ねらい」は下記の３点に集約できる。この「ねらい」の視点・ポイントによる本園の分析と所見は以下の通りである。

① 幼保一元化による質の高い幼児期の学校教育・保育の提供
② 待機児童問題解消のための保育の量的拡大・確保
③ 地域の子ども・子育て支援の充実

①に関しては、総ての子どもに質の高い幼児教育を提供することは必然である。では、本園が実践している幼児教育の質を高めようとした場合、実践すべきことは「建学の精神拡大に向けて努力研鑽すること」「教育方針や指導方針の改善・充実」「教職員一人一人の保育力の向上」等である。決して「認定こども園への移行」により本園の幼児教育の質が高まるということではない。私立幼稚園・学校法人幼稚園のままであっても認定こども園であっても、実践する幼児教育の質を高めることは必要なことである。そのため、「本園の幼児教育の質を高める」ために「認定こども園へ移行」するという理論はなりたたない。

また、子ども子育て新制度では現状の私立幼稚園運営と比較した場合、事務量が増大することが予想される。さらに、預かり保育の一時預かり事業への移行や公定価格の導入による保育料の変化等により、子ども及び保護者に与える影響が決して小さいとは考えられない。そのため、上記の問題による影響が限りなく小さいと判断することができない現時点での移行は、リスクが高いと考えられる。
さらに、子ども子育て新制度の移行により「私学の公共性と自主性」のバランスが崩れ、自主性が失われるのではないかという懸念もある。私学の自主性が失われるということは、前理事長・創立者である山口亨が幼稚園設立思考し、３８年間という長きにわたりその建学の精神を拡大させてきた「もの」を「縮小化」ということ認識が生じる。それは即ち、設立・創立から現在までの本園の幼児教育を肯定できないということである。もちろん新制度において「私学の自主性・独自性」が保証されるべきであるが、現状では“何とも言えない”という観点が大きい事実がある。「本園の幼児教育の質を高める」ことは「建学の精神の拡大に向けて努力研鑽すること」であると考える点は上記において述べた通りである。すなわち、本園の幼児教育の質を高めるどころか低くする可能性すら秘めているという認識が過ぎる側面を持つと認識するところである。

②に関しては、当園においても早朝保育・延長保育をとりいれ、11時間保育を実施しており、保育所と比較しても遜色ない保育時間である。また、待機児童問題で主に問題となっているのは０歳児から２歳児の所謂、乳児期の子ども達である。残念ながら、本園には乳児保育の実績・ノウハウは無いのが実情である。そのため、今すぐに乳児保育を実施するということは、現実的には考えられない。つまり、幼保連携型は無論、幼稚園型認定こども園への移行を決断したとしても、保育の量の拡大には至らないということである。

③に関しては、地域の子ども・子育て支援の充実は、新制度下においてのみ可能というわけではない。現状の私立幼稚園でも可能であると考える。園庭開放や未就園児教室等既に実施している。必要とされる、実施すべき地域の子ども・子育て支援とは何なのかという次元から考え、実践することが大切であると考える。

平成26年初夏の時点において、上記のことを総て鑑みた場合、子ども・子育て新制度に移行することが必然とは考えられない。現状の私立幼稚園として地域の幼児教育、子育て・子育ちに貢献していくことこそが、本園に求められる役割であり使命であると考える。目先の補助金の増額に惑わされることなく、使命を果たす為にも「私立幼稚園・学校法人山口学園くずは青葉幼稚園」として存続する英断に至る。
尚、今後の法令並びに内閣府・関係機関の動向、とりわけ枚方市及び近隣市町村の当該内容についての方針・施策等を十分に調査並びに研究を行い、冒頭の新制度のねらいの達成について努力することを特記する。

2014年度／平成26年度

くずは青葉幼稚園 自己評価・学校評価

並びに「認定子ども園移行」に関しての見解について

以上の通り、公開します。

2015年4月1日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

園長　**山口尚志**

学校法人山口学園

2014年度　くずは青葉幼稚園・学校評価

〒573-1102　枚方市北楠葉町３８番１号
電話　０７２－８５７－８２２１　　ＦＡＸ　０７２－８５６－５９４４
http://www.k-aoba.ed.jp/　　Mail address　info@k-aoba.ed.jp

2015年４月１日発行　　本書は40ページを以て成し、「学校関係者の評価」以外の文責は園長・山口尚志であることを記す。